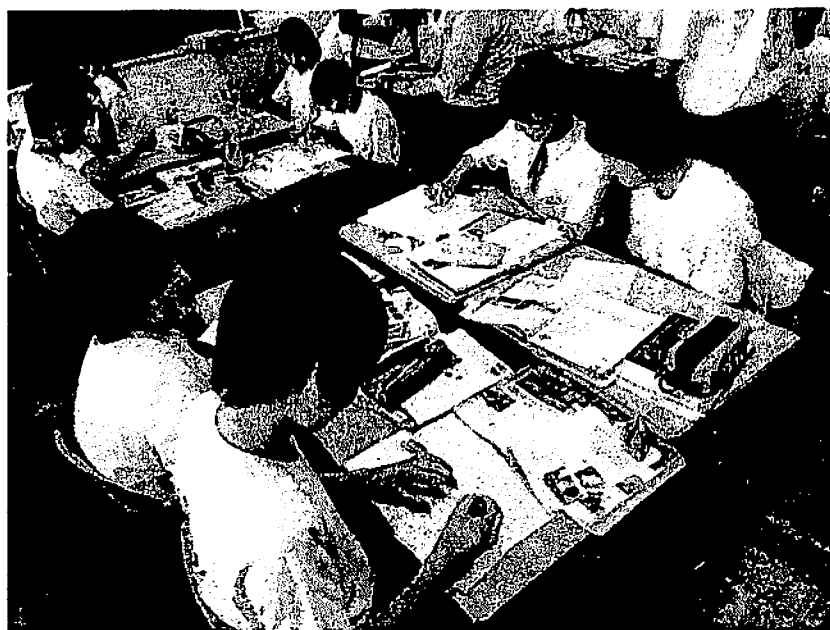
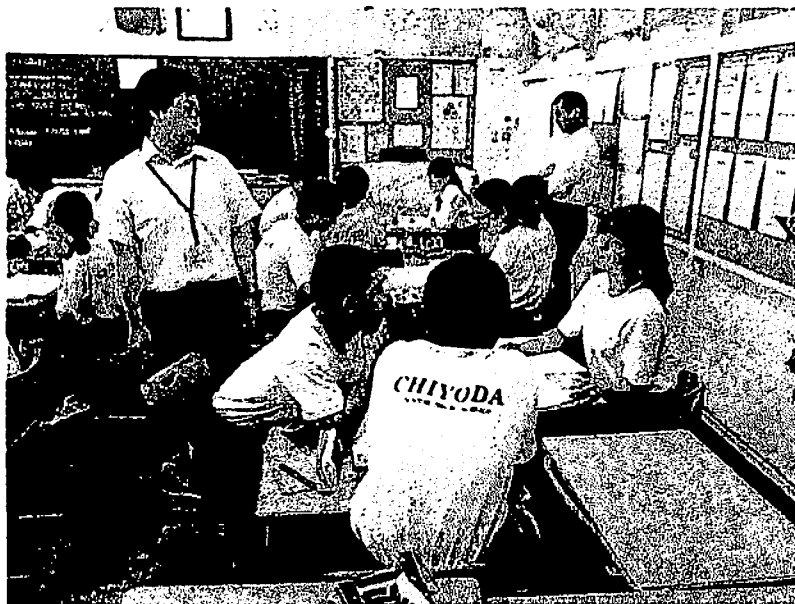


第67次印旛地区教育研究集会

(社会科教育・中学校)

興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む生徒を育成する社会科指導のあり方
～ノート指導と「偉人SNS」から表現力を養う～



四街道市立千代田中学校

村井 陽翔

1 研究主題

興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む生徒を育成する社会科指導のあり方
～ノート指導と「偉人 SNS」から表現力を養う～

2 主題設定の理由

(1)学習指導要領から

学習指導要領に第 1 章総説「社会科改訂の趣旨」(1)「基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得」の中で、次のように述べられている。

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

また、改正教育基本法の中に義務教育の目的の一つとして「社会において自立的に生きる基礎を培う」ことが規定されたことなどを踏まえ、系統性に留意しながら、主として、①社会の変化や科学技術の進展等に伴い、社会的な自立等の観点から子どもたちに指導することが必要な知識・技能、②確実な習得を図る上で、学校や学年間等で反復（スパイラル）することが効果的な知識・技能、等に限って、内容事項として加えることが適当である。と提言がなされている。これらの改訂の趣旨や要点を受け、“社会的事象に関心をもって自ら学習に取り組む生徒”を育てたいと考えた。

(2)印教研研究主題から

『よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題をみだし、自分の考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～』

印教研研究主題である「生きる力」とは、自ら課題をみだし、自らの考えを実現できる力のことである。日々の授業実践の中で、生徒の興味・関心を高め、自らの考えをもち、それを様々な手段で周囲に発信することで主体的に活動する態度を育成できると考えた。

(3)本校生徒の実態から

平成 28 年度の標準学力テストの結果を見ると関心意欲の観点で、県平均の値を大きく下回っていることがわかる。そこで、本校では興味・関心を持たせることで生徒の学習意欲を高めてく指導法のあり方について研究を重ねてきた。

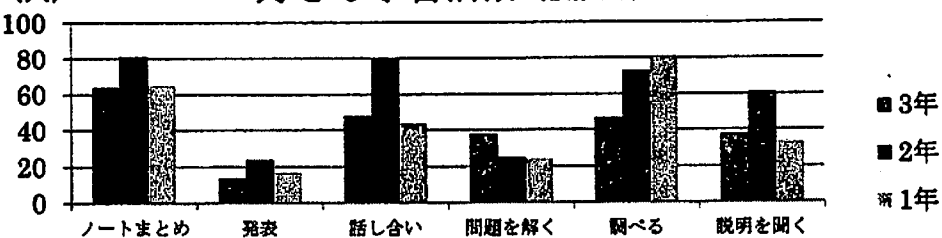
表 1 標準学力テスト結果学校平均(達成率%)

社会科観点	関心意欲	思考判断	資料活用	知識理解
千代田中	72.6	53.8	60.7	60.0
県平均	79.2	51.9	59.8	60.5

生徒の実態を把握するため
にアンケートを実施したところ、
社会科の授業で好きな学
習活動は「ノートまとめ」が
1番多く、「発表」が他の項
目よりも圧倒的に少ない。こ

(人)

好きな学習活動 (複数回答可)



のことから、授業で得た知識を自分でまとめることには意欲的だが、それらを活用して主体的に考えて表現することを好まない傾向があることがわかった。

これらの実態を踏まえると、「興味・関心を持ち、主体的に授業に取り組む力の育成」が大きな課題であることは明らかである。そこでまず、日頃の授業実践の中で生徒が興味関心を持てるような教材研究、授業形態を考えていく必要があるだろう。ニュースなどで取り上げられる身近な出来事と教科書の内容を結びつけたり、他教科との連携を意識することで、多面的・多角的に社会的事象をとらえることができるのではないかと考える。

また、本校では千代田中学校区の三校をあげて相互授業参観や協力授業などを行い、義務教育9年間での一貫した指導を目指してきた。中学生になって、「中1ギャップ」を感じる生徒を減らし、安心して授業に取り組める環境作りをしていきたい。日々の授業で、生徒の好きな活動であるノートまとめの指導に力を入れたり、班でのグループワークを定期的に取り入れることで、主体的に表現する場が増え、自己存在感が高まり、生徒が主体的に学習すると考え、本研究主題を設定した。

3 研究目標

社会科に関心をもち、主体的に学習する生徒を育成するためには、日々の授業で自分の考えをまとめる習慣を身につけ、調べ学習やグループワークを行うことが効果的な社会科指導法であることを明らかにする。

4 研究仮説

〈仮説1〉 日々の授業実践でノートづくりに重点を置き、基礎的な知識を整理するとともに、自分の考えを表現する習慣をつくることで主体的に取り組む基盤を作ることができるだろう。

〈仮説2〉 単元の導入やまとめの授業において、調べ学習やグループワークを取り入れることで、知識を深め、多様な意見を共有し、生徒が主体的に自分の考えを表現できるようになるであろう。

5 研究方法と実践

(1) 日頃の授業におけるノートづくり

【ノート指導】

日々の授業の中で生徒の意欲や関心を高めていくために、生徒が「自分なりの工夫する」ということに重点を置いた。板書をただ写すだけでなく、自分の興味・関心があることや、補足説明などを取捨選択し、まとめることで思考力や表現力も高めることができると考える。また、感想を書く欄も作り、授業を通して自分の感じたことを表現する機会を設けた。

ノートづくりの指導は4年目になる。そして今年度からは全校共通で取り組むこととした。授業開きの際に、資料1の「良いノートとは」というプリントを配り、説明を行った。ノート指導のポイントとして、①板書をていねいに写す。②メモ(補足の情報)をとる。③授業の感想を書く、という3点を基準とした。慣れないうちは時間がかかったり、メモらんが埋まらないことがあったが、資料2のように「良いノートとは」のプリントを参考にしながら書く生徒が多くいた。

資料 1 ノート指導プリント

良いノートとは？

(例)

①日付	②書き進めたこと。 (先生が黒板に書いたことをいかに写す)。	③メモらん。 (黒板の抄しに書いたことや、言葉で説明したことをメモする)。
	④自分を褒める。 (イラストを描いたり、重要語句の音写調べ、面白い漢字の調査など)。	⑤授業の感想など。 (授業を受けての感想や質問などを書く)。

ポイント

- ① ノートはきれいに！
 (字の上手い下手ではなくて、きれいに書くことの方が大事)。
- ② 自分への工夫をする！
 (黒板を写すだけでなく、先生の発言をメモしたり、イラストを描いてみる)。

ノートはみんな自分で作るものです。ひとりひとりが自分に合ったオリジナルのノートを作れるようにみんなが工夫をしてがんばろう。



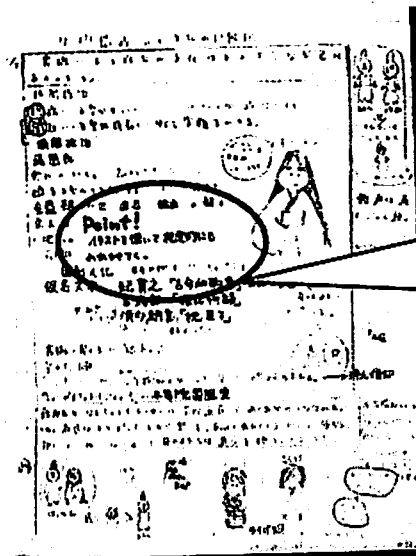
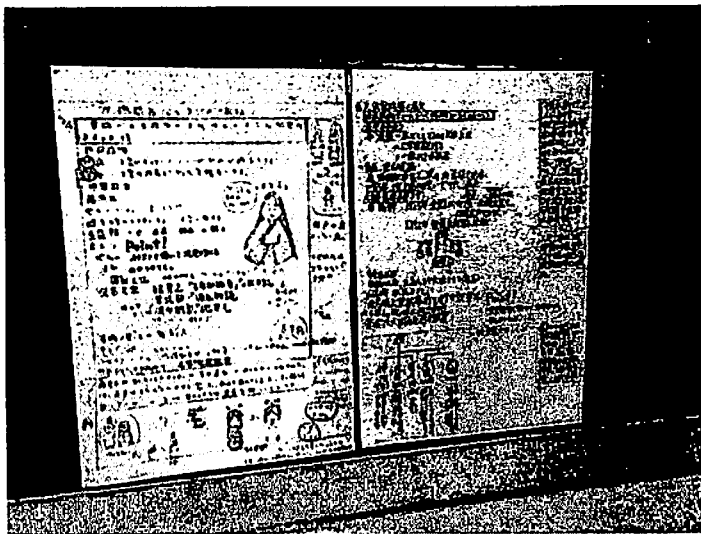
資料2 例に基づいた生徒のノート

1957	3. 進めヨーロッパ統合 本日は只今	統合… アップ
	ヨーロッパでどのようなことが統合と入っているのだろうか。なぜやがて合はるのだろう。 <u>国境をなくした統合</u> なぜEU(ヨーロッパ連合)を作ったのだろうか? - 資源を共同で使うため(経済協力) - 面積が小さく、人口が少ない→大国に勝たない戦争を起こさない → 1952年 EC(ヨーロッパ共同体) → 1993年 EU(ヨーロッパ連合) いこうすると、28か国が加盟(2013年) 世界の政治・経済に大きな影響を与えている	EUに加盟して、国境の自由移動が可能で昨年のように大々的に行うことができる。 EUの中で最も重要な役割を果たしている。(人々がよく知っている言葉) → 千載一逢い(一生一度しかないこと)
	<u>統合の進展と人々の生活</u> 工業…国境をこえて共同生産 移動…人がモノ・情報、国境をこえて移動、通関手 交通…高速鉄道(エクスプレス)、高速道路、航空路線への充実 通貨…共通通貨ユーロ導入 ヨーロッパではばり入りに短期間の休暇旅行	EC(ヨーロッパ共同体) → 欧州連合(EU) → 欧州理事会(Council of Europe) → 2004年
	国境を越えて飛行機に乗る	EUの主要な機関

[ノートの評価]

ノートは単元の終わりや定期テスト前に集め、定期的にチェックを行う。ポイントである3点をどれもしっかりとやっているノートには最高評価A+を与える。

- A+ . . . メモと感想を毎回しっかりと記入している。
A . . . メモを書いている。or 感想を書いている。(片方だけ、どちらも不十分)
B . . . 板書を写している。
C . . . 板書を写せていない。雑で読めない。



どの部分が良いのか、教師からのコメントもつける。

最高評価を得たノートは廊下に掲示をして、多くの生徒が見られるようにする。その際、ただ掲示をするのではなく、どの点が良かったのかを教師がコメントすることで、具体的に何をすればより良くなるのかをわかるようにしておく。

(2) 調べ学習とグループワーク

単元の導入や、まとめの時間に班での活動を意図的に取り入れて、考えを表現する機会をつくる。個人で考えたことをペアや班で発表することで、新しい意見を取り入れ、自分の意見を深めていく。調べ学習では自分の興味があるテーマを自己決定することで、意欲的に活動できるようにする。

実践：調べ学習(偉人 SNS)

2 年次の歴史の授業のまとめとして人物調べを行った。単に歴史上の人物を調べて情報をまとめるのではなく、生徒により身近な SNS を結びつけて、生徒が興味・関心を持てるように工夫した。

偉人 SNS をつくろう

2 年 組 氏 名 _____

(84)



似顔絵

【プロフィール】

- 氏名
- 生年月日
- 好きなもの、嫌いなもの
- 趣味
- 特技
- エピソード(伝説、言い伝え、おもしろい)
- 性格

【知り合いかも?】

- 家族
- 上司、部下
- ライバル

【偉人のつぶやき】

名前 _____ 年 _____

偉人がやったことを、その人の目線で書いてみる。
(偉人のつぶやき)

名前 1 人 2 人 3 人

国・都府県にこだわらず、うきうき書いちゃっていいよー。
偉人さんについて調べてみた。どんな偉人さんをつくっていくのかを7月か
8月か! とか決まらずに自由に書いていいよー。

名前 _____ 年 _____

実際の SNS のように
絵や写真を添えて、友達に送る
ような書き方は禁止!!

偉人 SNS をつくろう



似顔絵

【プロフィール】

- 氏名
- 生年月日
- 好きなもの、嫌いなもの
- 趣味
- 特技
- エピソード(伝説、言い伝え、おもしろい)
- 性格

【知り合いかも?】

- 家族
- 上司、部下
- ライバル

【偉人のつぶやき】

名前 _____ 年 _____

偉人がやったことを、その人の目線で書いてみる。
(偉人のつぶやき)

名前 1 人 2 人 3 人

国・都府県にこだわらず、うきうき書いちゃっていいよー。
偉人さんについて調べてみた。どんな偉人さんをつくっていくのかを7月か
8月か! とか決まらずに自由に書いていいよー。

名前 _____ 年 _____

実際の SNS のように
絵や写真を添えて、友達に送る
ような書き方は禁止!!

【作成のポイント】

- ①歴史的事実を参考に、当時の心情や周囲の環境を予想する。
- ②歴史上の人物になりきり、端的に主観的な表現をする。

教科書や資料集からただ情報を書き写すことだけでなく、自分の言葉でまとめたり、豆知識などの情報を書くことで生徒の主体性が伸びるのではないかと考えた。また、客観的な事実だけでなく、主観的な表現をすることで、当時の生活や歴史的事象の背景を想像し、生徒の興味関心が高まるのではないかと考えた。

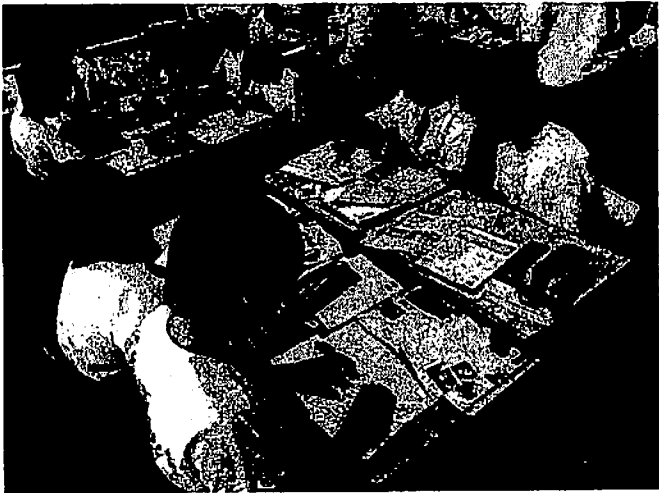
【評価のポイント】

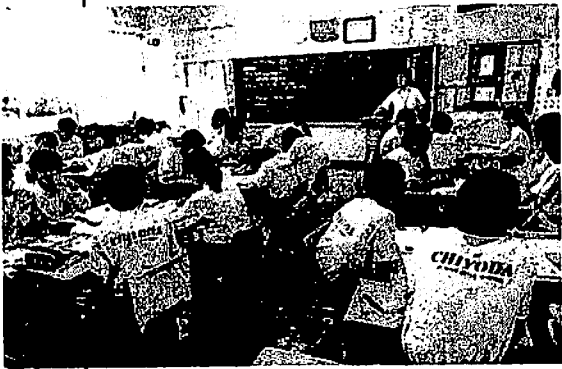
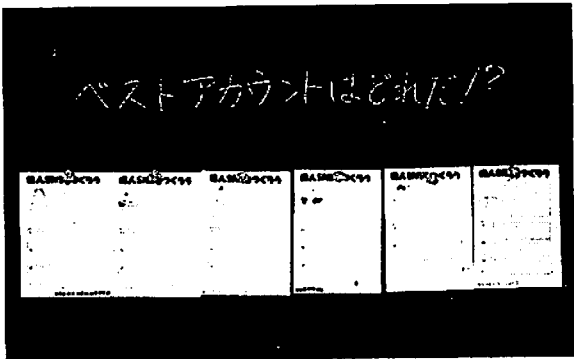
- ①作成のポイントを押さえている
- ②プレゼンをした後に人気投票を行ってベストアカウントを決定する。
→お気に入りのものにシールを貼り、その数で競う。

これらのポイントを踏まえ、プリントが完成したら、それぞれが自分の作品のプレゼンを行い、お気に入りの作品をフォローする。(シールを貼る) 発表の苦手な生徒もフォロワーを伸ばすために発表に積極的だった。

今回は説明からプレゼンまでを3時間で行った。調べ学習の時間は3～4人の小グループで行い、質問がある場合は相談可とした。基本的には教科書や資料集から情報を収集していたが、自分で図書室から本を借りてきたり、家にある資料を持ってくる生徒も多く見られた。

「偉人 SNS」全3時間展開

時間	学習内容	○指導・支援 ※評価
1	偉人 SNS 説明と情報収集 ・プリントを見て説明を聞く。 ・自分が誰を調べるのか決定する。 ・教科書や資料集から情報を集めてまとめる。 	○説明プリントを読みながら、作成のポイント3点を全体で確認する。 ○少人数グループを作り、相談し合える雰囲気作りを心がける。 ○机間巡視をして作業が進まない生徒には積極的に声をかける。 ※資料を見ながら意欲的に調べようとしている。【関心・意欲・態度】 ※資料から読み取った情報をプリントにまとめることができる。【技能】

1	プリント作成、発表準備 ・前時のプリントをもとに SNS のプリントを作成していく ・発表の準備をする。	○歴史的事実と自分の主観的な意見が混同しないようにする。 ○「つぶやき」の部分は自分でまとめて端的に書くよう指示する。 ※集めた情報を整理してまとめることができる。【技能】 ※歴史的事実をもとに、主観的な意見を考えることができる。【思考・判断・表現】
1	プレゼン ・生活班(5～6人)で自分の SNS を紹介する。 ・班で一つ代表を決める。 ・代表の中から更にプレゼンをして投票する。  	○話し合いの決まりを確認する。(司会が進行していく。) ○作成のポイントを踏まえて、投票させる。 ※自分でまとめたものをもとに進んで話し合いに参加している。【関心・意欲・態度】 ※作成のポイントを踏まえて作品を評価することができる。【思考・判断・表現】

6 仮説の検証

(1) 仮説1について

日々の授業実践でノートづくりに重点を置き、基礎的な知識を整理するとともに、自分の考えを表現する習慣をつくることで主体的に取り組む基盤を作ることができるだろう。

ノートづくりに重点を置くことで、自分なりの工夫をする生徒が増加した。最初の頃は例にそって書いていたが、自分なりにメモらんの工夫をしたり、イラストやグラフをたくさん取り入れることができるようになった。また、感想の内容も変化していった。さらに、ノートだけではなくワークや白地図作業でも補足説明や付け足しを意識しながらメモを取る生徒が出てきた。指示されたことや、やらなければならないことだけでなく、自ら必要だと思う情報を整理して、主体的に取り組む習慣が身についてきたと言える。

[生徒の変容] Aさんのノートの変化から

1 年次	2 年次
2 月 5 応仁の乱と戦国大名 応仁の乱による、室町時代の社会はどのような変化を遂げたのだろうか。 ＜応仁の乱＞ ・ 応仁の乱 1467年から1477年頃 原因 守護大名の勢力争い → 足利将軍足利義満の死、将軍後継者争い（山内、細川の対立） ・ 山城の国一揆（赤松） 武士と農民の団結 ・ 一向一揆 武士や農民が団結して 争った 守護大名を 追い出し 自治を行う ＜戦国大名と城下町＞ 下剋上 実力のあるもの、所領を奪って 上りの身分の者に代わった 戦国大名 守護大名の地位を奪った (武田、上杉、徳川) 戦国時代の始まり	2 月 国際社会と日本 1. 高度経済成長の後の日本 経済成長の中で、国民の生活はどのように変化していったのだろうか。 日米関係と沖縄の復帰 ・ 1955年 自由民主党（自民党）成立 → 30年間の政権を担った（55年体制） ・ 1960年 日米安全保障条約の改定 → 平和運動、自衛隊問題もあり、反対運動 → アメリカに依存する政治 経済体制 ・ 1972年 沖縄の復帰 → 日本に復帰した国は初めて （問題点） ・ アメリカ軍の基地が残り（沖縄の約10%） ・ 事故、公害、犯罪 高度経済成長の光と影 ・ 1955～1973年 高度経済成長期 ・ 重化学工業が発展 ・ 国民総生産が年平均10%以上、70年代後半には20%に達した ・ 家電製品・自動車・鉄鋼・繊維 ・ 公害問題 水質汚濁、大気汚染 → 公害対策基本法制定、環境庁設置 ・ 1973年 石油危機（オイルショック） 高度経済成長の終り 日米関係の悪化 ・ 1963年 日米通商条約締結（戦後初の通商条約） ・ 1972年 日中共同声明（国交正常化） ・ 1978年 日ソ国交正常化（関係の正常化）

社会科にあまり興味の無い生徒で、板書を書くのが精一杯なことが多かった。メモらんも声かけをしないとなかなか埋めることができなかった。

書くことに慣れて、情報を整理して書けるようになった。見やすくするためにイラストを用いたり、少しずつ感想を書くようになり、自分の意見を持てるようになった。

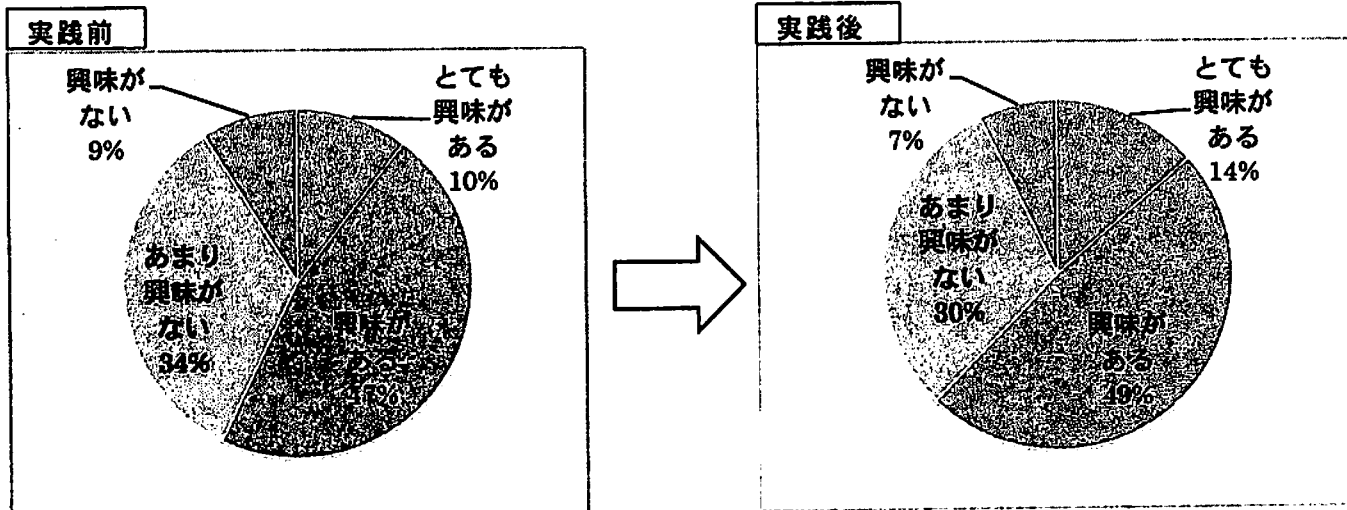
(2) 仮説 2 について

単元の導入やまとめの授業において、調べ学習やグループワークを取り入れることで、知識を深め、多様な意見を共有し、生徒が主体的に自分の考えを表現ようになるであろう。

生徒の感想より（偉人 SNS を終えて）

- ・みんな面白くて良かった。主観的に書くというのが難しかった。
- ・知らないことが多くて「そうなんだ」と思うものがいくつかあった。
- ・自分と同じ人物について調べているのに全然違うことが書いてあってびっくりした。どの情報を使うかで印象が変わるんだなと思った。
- ・代表に選ばれるアカウントはみんなしっかり書けていてすごい。自分もまねしてみたいと思う。
- ・代表に選ばれて嬉しかった。もっと色んなことを調べたい！

普段のノートまとめのように事実をまとめるだけではなく、主観的に書くという部分で苦戦した生徒が多かった。グループで意見を交換することで、さらに知識を深めたり、他の作品と自分の作品を比較して考えを深めることができた。また、作成後に発表をすることで意欲が高まり、「もっとやりたい」や、「良いものをまねしよう」という感想も多く見られ、主体的に取り組もうという態度が見られるようになった。



実践の前後でアンケートをとったところ、偉人 SNS を通して、社会科に興味を持つことができた生徒が増えたと言える結果になった。

〈成果〉

○ノートまとめを通して、社会科に主体的に取り組む生徒が増えた。ノート以外にもワークなどでメモを書く生徒が増えてきた。

アジア州③

標準時間6力

(正解 四/10問)

問1

(1)	A	①
	B	②
(2)		✓ アカサヤシ
	a	③
(3)	b	④
(4)		⑤
	①	⑥
(5)	②	⑦
	③	⑧
(6)	⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	

10 世界の産地域 アジア州④

問題 1 次の国を記号で表せ。

① [インド]

② [パキスタン]

③ [中国]

④ [インドネシア]

⑤ [タイ]

⑥ [韓国]

⑦ [香港]

⑧ [シンガポール]

⑨ [マレーシア]

⑩ [フィリピン]

⑪ [ブルネイ]

⑫ [ジャバ]

⑬ [ASEAN]

問題 2 次の国を記号で表せ。

(1) [インド]

(2) [パキスタン]

(3) [中国]

(4) [ASEAN]

(5) [ASEAN]

⑬ [ASEAN]

⑭ [ASEAN]

⑮ [ASEAN]

⑯ [ASEAN]

⑰ [ASEAN]

⑱ [ASEAN]

⑲ [ASEAN]

⑳ [ASEAN]

㉑ [ASEAN]

㉒ [ASEAN]

㉓ [ASEAN]

㉔ [ASEAN]

㉕ [ASEAN]

㉖ [ASEAN]

㉗ [ASEAN]

㉘ [ASEAN]

㉙ [ASEAN]

㉚ [ASEAN]

㉛ [ASEAN]

㉜ [ASEAN]

㉝ [ASEAN]

㉞ [ASEAN]

㉟ [ASEAN]

㊱ [ASEAN]

㊲ [ASEAN]

㊳ [ASEAN]

㊴ [ASEAN]

㊵ [ASEAN]

㊶ [ASEAN]

㊷ [ASEAN]

㊸ [ASEAN]

㊹ [ASEAN]

㊺ [ASEAN]

㊻ [ASEAN]

㊼ [ASEAN]

㊽ [ASEAN]

㊾ [ASEAN]

㊿ [ASEAN]

9

〈課題〉

- グループワークをどの単元で取り入れると効果的なのか見極める必要がある。
- 意見を書いたり、少人数での意見交換などはスムーズに行えるようになったので、全体で意見を発表できる場をさらに意図的に設定していきたい。
- まだ、大きな変容が見られない生徒もいるので今後も本研究を継続していきたい。

資料編

良いノートとは？

(例)

①日付	②板書されたこと (先生が黒板に書いたことをていねいに写す)	③メモらん (黒板のはしに書いたことや、言葉で説明したことをメモする)
	④自分を表現する (イラストを描いたり、重要語句の意味調べ、難しい漢字の練習など)	⑤授業の感想など (授業を受けての感想や質問などを書く)

* ポイント *

1 ノートはていねいに！
(字の上手い下手ではなくて、きれいに書こうとしているかが大事)

2 自分なりの工夫をする！
(黒板を写すだけでなく、先生の発言をメモしたり、イラストを描いてみる)



ノートはみんな自身が作るものです。ひとりひとりが自分に合ったオリジナルのノートを作れるように色々な工夫をしてみましょう。

3節 アフリカ州 —おんな生産品による生活の発展—

1. アフリカ州をながめて

目標 アフリカ州の特色をとらえよう。

広大なさばくが広がるアフリカ

地形：さばく

サハラさばく(世界最大、アフリカの3分の1)

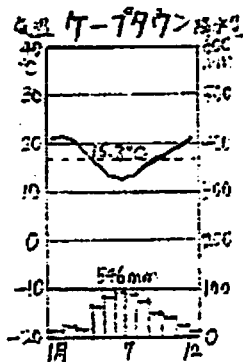
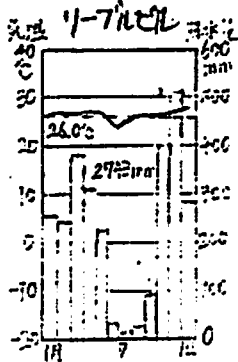
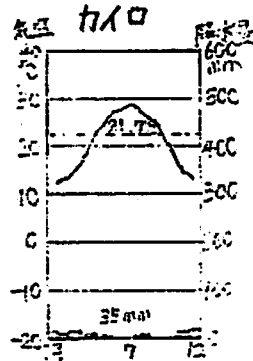
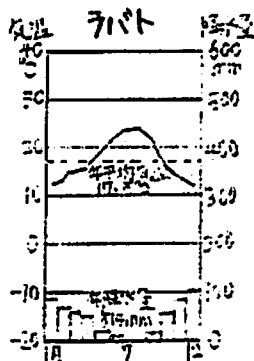
宗教：北部はイスラム教

サハラ以南は伝統的宗教

気候：赤道付近は熱帯、そこから南北対称に乾燥帯・温帯

かつて植民地支配され、奴隷が多くいた。
→今では旧宗主国の言葉を公用語にしている。

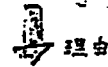
アフリカ各地の気温と降水量



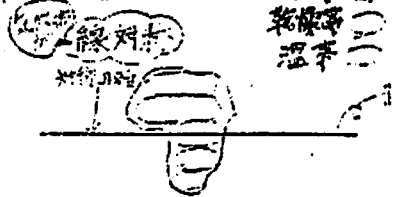
雨温図を描くことで視覚的にもわかりやすくなるように工夫している。

さばく 沙漠で 乾燥

アフリカはさばくだらけで
なる。(サハラさばく、リビアさばく、
モザンビーク)



焼畑、温暖化などがあるため。



奴隷

労働力として、使えぬ人々、
人としての権利があまり
与えられていない。

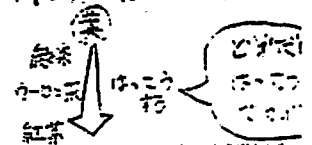
世界で多く使われている言語

1位... 中国語

2位... 英語

その他 ④ スペイン語、ポルトガル

緑茶もウーロン茶も紅茶も、
もとは同じ葉っぱから作られる



感想

私は今まで「砂漠を見
ことがないから、世界一
というアフリカのサハラ
を見てみたいと思った。
アフリカの3分の1がさば
だらけで、その広さが全く
想像できないな」と思った

7. 摂関政治と文化の国風化

貴族による政治や文化はどのような特色があるのだろうか。

摂関政治

- 摂政**…天皇が女性や幼少の時に代わって政治をする
- 関白**…天皇が成長してから実権をにぎる。

摂関政治

藤原氏

他氏のはいじ…高位を独占

娘を天皇のよききにする…天皇の外戚
全盛期 11世 道長 頼通の朝に
広大な

Point!

地物のイラストを描いて視覚的にも
国風がわかりやすく。

国風文化…日本の歴史、生活や感情に合った文化。

仮名文字 紀貫之「古今和歌集」「在日記」

仲が熱い！ 紫式部「源氏物語」
清少納言「枕草子」

貴族の屋敷…寝殿造

浄土信仰

念仏をとなえ、阿弥陀如来がいた極楽浄土へ生まれかわる。

代表的な阿弥陀堂…平等院鳳凰堂

藤原氏がほしいとした人々の中には「菅原道真」がふくまれている。しかし道真はエリートだったから、怒った。病気で死んでしまった。その後、都に帰った。人々は、道真を神としてまつようになった。



頼通は、道長ではなく通。

平安時代は日本らしい!! 文化!!



浄土信仰

平等院はさう

という感じ

の感じ

の感じ

の感じ

の感じ

の感じ

の感じ

の感じ

の感じ

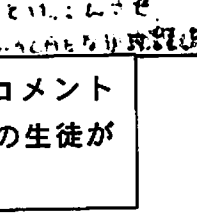
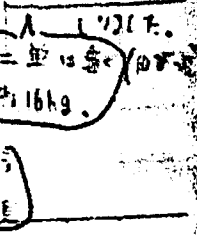
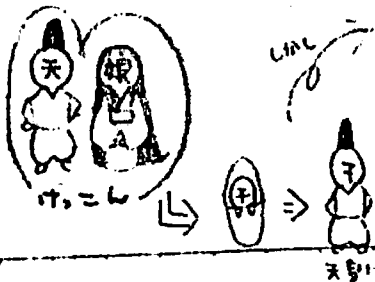
の感じ

の感じ

の感じ

の感じ

の感じ



良いノートは教師からのコメント(付せん)をつけて、多くの生徒が見られるように掲示する。

2節 国際社会と日本

1. 高度経済成長のなかの日本

経済成長の中で、国民の生活はどのように変化したのだろうか。

日米関係と沖縄の復帰

- ・ 1955年 自由民主党（自民党）成立
→ その後38年間政権をにぎる（55年体制）
- ・ 1960年 日米安全保障条約 改定
→ 平和運動、自衛隊問題もあり、反対運動
→ アメリカに依存する政治 経済体制
- ・ 1972年 沖縄の復帰
→ 非核三原則が国の方針に
（問題点）
 - ・ アメリカ軍の基地が残る（沖縄の約18%）
 - ・ 事故・公害・犯罪

高度経済成長の光と影

- ・ 1955～1973年 高度経済成長
 - ・ 重化学工業が発展
 - ・ 国民総生産が年平均10%アップ
 - アメリカに次ぎ、資本主義国2位
 - ・ 家電製品・自動車の普及
 - ・ 公害問題…水質汚濁、大気汚染
 - 公害対策基本法制定、環境庁設置
- ・ 1973年 石油危機（オイルショック）
高度経済成長の終わり

アジア諸国との関係

- ・ 1963年 日韓基本条約…韓国と朝鮮半島唯一の政府と承認
- ・ 1972年 日中共同声明…国交正常化
- ・ 1978年 日中平和友好条約…関係の深まり

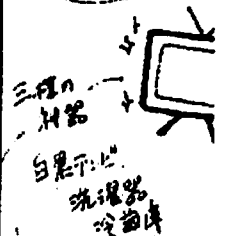
感想

国が公営の事業を
行った人たちのため
に、この山から人々
が2倍とせいに
うに、対策を7倍し
てみる

日米安全保障条約、
特に安保条約。
安保条約に反対し
た人は国会の前は
集まり大規模な
反対運動が
起った。
（安保闘争）



核兵器を
持つ国
ついに
持つ国



四大公害病

- ・ 水俣病
- ・ イタイイタイ病
- ・ 四日市咳
- ・ 新潟水俣病



ワーク例

① 江戸時代

② 江戸時代

③ 江戸時代

④ 江戸時代

⑤ 江戸時代

⑥ 江戸時代

⑦ 江戸時代

⑧ 江戸時代

⑨ 江戸時代

⑩ 江戸時代

⑪ 江戸時代

⑫ 江戸時代

⑬ 江戸時代

⑭ 江戸時代

⑮ 江戸時代

⑯ 江戸時代

⑰ 江戸時代

⑱ 江戸時代

⑲ 江戸時代

⑳ 江戸時代

① 江戸時代

② 江戸時代

③ 江戸時代

④ 江戸時代

⑤ 江戸時代

⑥ 江戸時代

⑦ 江戸時代

⑧ 江戸時代

⑨ 江戸時代

⑩ 江戸時代

⑪ 江戸時代

⑫ 江戸時代

⑬ 江戸時代

⑭ 江戸時代

⑮ 江戸時代

⑯ 江戸時代

⑰ 江戸時代

⑱ 江戸時代

⑲ 江戸時代

⑳ 江戸時代

① 江戸時代

② 江戸時代

③ 江戸時代

④ 江戸時代

⑤ 江戸時代

⑥ 江戸時代

⑦ 江戸時代

⑧ 江戸時代

⑨ 江戸時代

⑩ 江戸時代

⑪ 江戸時代

⑫ 江戸時代

⑬ 江戸時代

⑭ 江戸時代

⑮ 江戸時代

⑯ 江戸時代

⑰ 江戸時代

⑱ 江戸時代

⑲ 江戸時代

⑳ 江戸時代

[illegible]

(3点×12)

1. フランス革命

2. 人権宣言

3. ナポレオン戦争

4. ナポレオン

5. ナポレオン

6. ナポレオン

7. ナポレオン

8. ナポレオン

9. ナポレオン

10. ナポレオン

11. ナポレオン

12. ナポレオン

(4点×10)

1. 独裁政治

2. 平等

3. 権利

4. 領事裁判権

5. ナポレオン

6. ナポレオン

7. ナポレオン

8. ナポレオン

9. ナポレオン

10. ナポレオン

地租改正

1. 征韓論

2. 西南戦争

3. 韓国

4. I

5. I

6. 収買物カ

7. 現金

8. 板垣退助

9. 日本に

10. 日本に

重要漢字 モチエック

① 薩長同盟 ② 版籍奉還

③ 三国干渉 ④ 中華民国

メモを取る習慣が身について生徒は、ただ問題を解いて間違い直しをするだけでなく、自分の不安なところを地図や相関図でまとめるようになった。

偉人SNSをつくろう

2年 組 氏名 _____

(例)



[知り合いかも?]

- ・家族
- ・上司、部下
- ・ライバル

[プロフィール]

- ・氏名
- ・生年月日
- ・好きなもの、嫌いなもの
- ・趣味
- ・特技
- ・エピソード(伝説、言い伝え、おもしろ)
- ・性格

[偉人のつぶやき]

西暦 _____ 年

偉人がやっただけことを、その人の
目線で書いてみる。
(偉人のつぶやき)

西暦 1600 年 例

関ヶ原の戦いこわかった……。うちの軍が勝ってよかったなー。
家康さんについてきて良かった。どんな世の中をつくっていくのかな？今か
ら楽しみ！とりあえず江戸に引っ越そうかな。

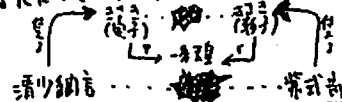
西暦 _____ 年

実際のSNSのように
誰かを傷つけたり、不快な思いを
させる書き込みは禁止！！



- ・枕草子
- ・彰子
- ・藤原道長

- ・出生 … 薩原為時、むかし
- ・生没身 … 不明
- ・職業 … 王皇のミコト、家庭教師
- ・性格 … まじめ、勉強好き
- ・エピソード

[illegible]

西曆 1000 年

西曆 1008 年

西暦 _____ 年 紫式部の日記より ~ 清少納言の「つ」~

清少納言の漢學の知識を自慢のみに表に出して得意になっている様子か。
我儘な子だ。
こいつは将来よく育つことがうけ。



偉人SNSをつくろう



【知り合いかも?】

- ・源義経
- ・北条政子
- ・平清盛

【プロフィール】 源頼朝

- ・生年月日 1147年~99年 ?月?日
- ・性格 ・かまさん強い(清盛に流しにこれこそしかり計画を練ってやがて秋(人た)から)
- ・特長 ・質素を好む(服装もあまじい出(は)ないし、寺などよく通(と)っているから)

・エピソード 〈白と赤〉

- ・源氏の白旗と平氏の赤旗が運動会(う)などで分かれ、紅白の起源(き)とな(な)っている。

【偉人のできごと】

西暦 1180 年

初めての平氏との戦(いくさ)だったか負けてしまった...
次(つぎ)こそは清盛に勝(か)ってキヤン(チャン)と言(い)わせてやる!
そのために今日は早く寝(ね)よう。zzz

西暦 1185 年

ついに鎌倉幕府(かまくら)を開(ひら)くことかできたぞ!!
守(まも)り屋(や)や地頭(ぢちう)を置(お)いて、ライバル達(たち)をしかり監視(かんし)して、武(ぶ)家(け)中(ちゅう)心(しん)の政治(せいじ)を行(い)っていき(い)ろ!

西暦 1192 年

よし! 朝廷(ていてい)から征夷大将軍(せいぎだいていぐん)に任(た)命(めい)されたぞ!
御家人(ごけいじん)と御恩(ごおん)と奉公(ほうこう)の主従関係(しゅしゆくわんけい)を結(むす)んでよりよい日本(にっぽん)を
作(つく)っていき(い)ろ!



偉人SNSをつくらう



【知り合いかも?】

父: 織田信秀

妻: 濃姫

上司: 足利義昭

部下: 豊臣秀吉, 明智光秀

ライバル: 武田勝頼, 今川義元

【プロフィール】

＜生年月日＞

1534年

＜名前＞

織田信長

＜好きなもの＞

新しいもの 鉄砲とかオリス教とか。

＜性格＞

矢張り

「なめたら殺してほえホトギス」
からわかるよ。

＜出身地＞

尾張国(愛知県)

【偉人のできごと】

西暦 1560 年 <桶狭間の戦い>

馬場河内(静岡県)でライバルの今川義元をやぶりました〜。
これでやっと有名になれる?!

そろそろ新しい武器欲しいんだよね。

何かいいかなあ。

西暦 1575 年 <長篠の戦い>

新しくゲットした武器, "鉄砲" で 甲斐国(山梨県)の武田勝頼を長篠城
付近でやぶったぜ!!

そーいえば鉄砲 ちゅー高かったん(泣) 6匁銃は72万9000円, 30匁銃は324万円
もしたよ。
け、ここの金使、ちったけとこ 結構なお城が壊れてきたなあ。

西暦 1582 年 <本能寺の変>

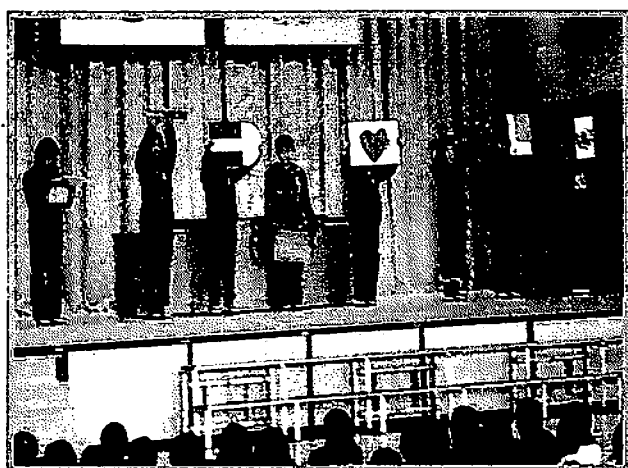
安土城もたてたし、城下町もいかにんじ"た"ったなあ。まあ、死んだあとには城は壊されたけど...
ん〜... や、はり全国統一はしたか(泣)

本能寺で明智光秀にそむかれるとは思わなかったよ〜。48歳で死んだううううわわわわわわ

豊臣秀吉! 女とは下の人だ!!

あーこれは死んだあーわわわわわ

異なる文化や習慣を理解し、
国際協力の芽が息吹く社会科学習のあり方
～「響け！届け！八街から世界へ！」の学習を通して～



1 研究主題

異なる文化や習慣を理解し、国際協力の芽が息吹く社会科学習のあり方
～「響け！届け！八街から世界へ！」の学習を通して～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

近年、社会や産業の構造が変化し、交通や情報社会の技術進歩により、諸外国との交流は国や企業等の集団だけでなく、個人においてもより身近なものとなってきている。また国際社会においては、人類の開発活動や経済活動に起因する環境問題や貧困問題など様々な問題が起きている。これらの諸問題について、一国だけの解決は到底不可能である。国と国とが協力して、世界全体で共通の課題意識をもち、一人一人が自分ごととして捉える必要がある。自分にできる身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことが求められている。

(2) 学習指導要領から

本単元は、学習指導要領第6学年の目標及び内容を受けて設定している。

目標(3) 世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

内容(ア) 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子

(イ) 我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に協力している国際連合の働き

ここでの学習内容は、学習指導要領解説社会編によると「世界の中の日本の役割において日本と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の文化や習慣を調べる活動を通して、様々な外国の文化や習慣を具体的に理解させるとともに、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることに気付かせる。さらに、国際交流活動や国際協力活動を積極的に行っている様子を取り上げ、日本は、世界の平和や発展のために重要な役割を果たしていることを考えることができるようにすること」としている。

持続可能な社会づくりの観点から、地球規模の諸問題や地域課題を主体的に解決しようとする態度、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育んでいくことが求められている。

(3) 印教研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題を見出し、自らの考えを実現できる児童生徒の育成をめざして～

印教研究主題である「生きる力」とは、自ら課題を見出し、その課題解決へ向けて自らの考えをもち、表現できる力のことである。従来の指導方法では、指導者が課題を設定し、児童は課題に沿った調べ学習を行い、まとめるといった受動的な学習が行われてきた。それらの状況を打破すべく、印教研究社会科研究部においては、実践提案・授業改善がこれまでに多く行われてきた。よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を身につけた児童・生徒を育成するためには、問題を自らのものとし、自らが考えた方法で、実行・実現させていくことが必要不可欠である。人とのつながりを大切に、交流・体験活動を通して、実感を伴った理解の中で、将来にわたって生きる力を育んでいかなければならない。

(4) 児童の実態から(6年3組 34名)

八街市は、千葉県北部のほぼ中央に位置し、標高は40～50m台となっている。東京から50km圏内にあり、京葉工業地帯20km、成田国際空港10kmの位置にある。市中央は市街地をなして、周囲に落花生を代表とする畑作地帯が広がり、南西部および北部に水田地帯が点在している。また、近年外国人住民人口が増加傾向にあり、市の総人口の約2.5%が外国人住民である。その中でも特にアジア系外国人が60%を占めている。八街市立朝陽小学校は、八街市の北部に位置し、創立132年を迎えた学校で、現在約500名の児童が在籍している。

本学級の児童は、社会科の学習に興味をもっている児童が多い。理由として「調べることが好き」「色々なことを知ることができる」などが挙げられる。本単元の学習内容に関する事前アンケートでは、外国に対しての印象は「怖い・恐ろしい」「何を話していいかわからない」といった否定的な意見が多く見られた。外国に対する見方・考え方が一面的なことがわかる。さらに、「知っている国はどこか？」の問いには、「アメリカ」「中国」「北朝鮮」などが多かった。これは児童が外国の情報を得る方法としてテレビやインターネットが多いためである。スポーツやエンタメ・政治などあらゆる情報があるが、アメリカ＝「ロボット技術がすごい」「英語だから身近に感じる」、中国＝「領土を侵略している悪い国」「カエルや犬を食べる国」、北朝鮮＝「危険な国」などメディアが作り出しているイメージに偏っているのではないだろうか。実際には、人と人とのつながりを大切にし、外国に対しての認識を自らの頭で考え、感じることも、持続可能な社会づくりにおいて、今後必要となってくると考える。

また、外国への興味については、「スポーツ」「ファッション」など文化的な要素が多い。それらも大切であるが、環境問題や貧困に関する問題についての認識はほとんどなかった。これからの国際社会では、持続可能な社会づくりに向けて、世界全体で共通の課題を共に解決しようとする国際協力の視点が必要である。

以上、児童の実態から、本学級の児童は、外国に対して一面的に捉えていて、外国とのつながりは文化的な面に限られていることがわかる。本学級の児童が、異なる文化や習慣を人と人とのつながりを大切にしながら実感をもって理解し、国際協力の視点をもてるようにする必要があるため、本研究主題を設定した。

3 主題について

(1) 異なる文化や習慣を理解するとは

本単元において、「異なる文化や習慣」とは、自国以外の多種多様な文化や習慣のことである。画一的にならないよう、世界各地の文化や習慣を取り上げる。それらを「理解する」とは、単純に文化や地理の知識を獲得させることではない。自国と外国・外国と外国を比較し、共通点や違いから自国や外国の良さを認識し、そのような文化や習慣に違いのある中で、共に生きていくためには、互いの文化や習慣を認め、尊重し合うことが大切であると気がつかせることである。

児童は普段の生活の中で、世界と自分とはつながりがあるという意識をもって過ごしている児童は少ない。さらに、現在世界で起きている様々な諸問題についても遠い場所で起きていることは自分とは関係がないと思っている児童も多い。そこで、本研究では、学習協力者(成田市国際交流協会・日本ペルー友好協会八街・本学級保護者)との対話的活動を取り入れる。これらの活動により、メディアの情報だけでは、わからない自国のよさや外国の文化や習慣を理解することができると考える。さらに、児童が、自国と外国との文化や習慣には共通点や違いがあることに気付くことができるように、一面的ではなく、多面的に見ることができる場を設ける。このことにより、児童が「異なる文化や習慣を理解する」ことができるようになることを、本研究を通して明らかにしたい。

(2) 国際協力の芽が息吹くとは

「国際協力」とは政府間、多国間、あるいは民間で行われる国境を越えた援助・協力活動のことである。国際的に本格的に実施されたのは1960年代からである。日本の場合、1980年代以降から展開されている。2002年の南アフリカ共和国で行われた世界首脳会議では、持続可能な社会について提言がなされた。しかしながら、近年諸外国では、自国の利益を優先する保護主義的な動向が見受けられる。また、日本においても外国に対して閉鎖的な面を持ち合わせているのではないだろうか。地球規模的な課題への理解・協力が揺らぎ始めている。

このような世界の情勢を踏まえて、本研究においては国際協力の大切さを子ども達一人一人に実感させたいと考えた。「国際協力の芽が息吹く」とは、「異なる文化や習慣を理解する」を前提とし、「国際的な資質・能力」が身に付くことである。本研究では、国際的な資質・能力を、『外国への親しみ』『多面的な思考力』『国際的な問題を協働して解決しようとする態度』の3つに定義する。

4 求めたい資質・能力

①外国への親しみ

外国への親しみとは、ひとりよがりのイメージでとらえるのではなく、外国の文化や習慣に興味をもち、人とのふれ合いを通して、自らが積極的に外国と関わろうとする態度のことである。

②多面的に見る思考力

多面的に見る思考力とは、人・もの・こと・社会のつながりを理解し、それらを様々な視点から考えることができる力のことである。本單元においては、日本と外国の文化や習慣の共通点や違いを、学習協力者との対話的な活動を通し、多面的に整理・考察する場面を設けることで、それぞれの国のよさに気づき、互いの文化や習慣を認め、尊重し合うことができることとする。

③国際的な問題を協働して解決しようとする態度

国際的な問題を協働して解決しようとする態度とは、相手の立場に立ち、相手の考えや行動に共感するとともに他者と協力・協働して、ものごとを解決しようとする力である。前述したように国際協力を行っていく上で、一人の力だけではなく複数の力で問題解決する視点を児童にもたせていきたい。国際的な問題を解決するためには、一人一人の力はとても弱く、問題を解決していくことは難しいのが現状である。しかし、互いの立場や役割を理解しながら、多くの人々で協力しながら問題を解決していく態度を育てていけば、どのような問題でも一歩前に進めることができるのではないだろうか。自分たちの力でできる国際協力を考え、周りに協力を働きかけることができる態度を育てていきたい。

5 研究の目標

本研究は、交流活動を通して外国の異なる文化や習慣への理解を深めた上で、身近な国際協力活動について知る。そして、問題解決へ向けて自ら課題を設定し、その課題解決へ向けて活動することが国際協力の芽が息吹くことに有効であることを実践を通して明らかにする。

6 研究の内容と方法

【 研究内容 】

児童が自国と外国との文化や習慣の共通点や違いに気づき、多様性を尊重する態度への変容。

国際的資質・能力を身につけるための手立ての有効性。

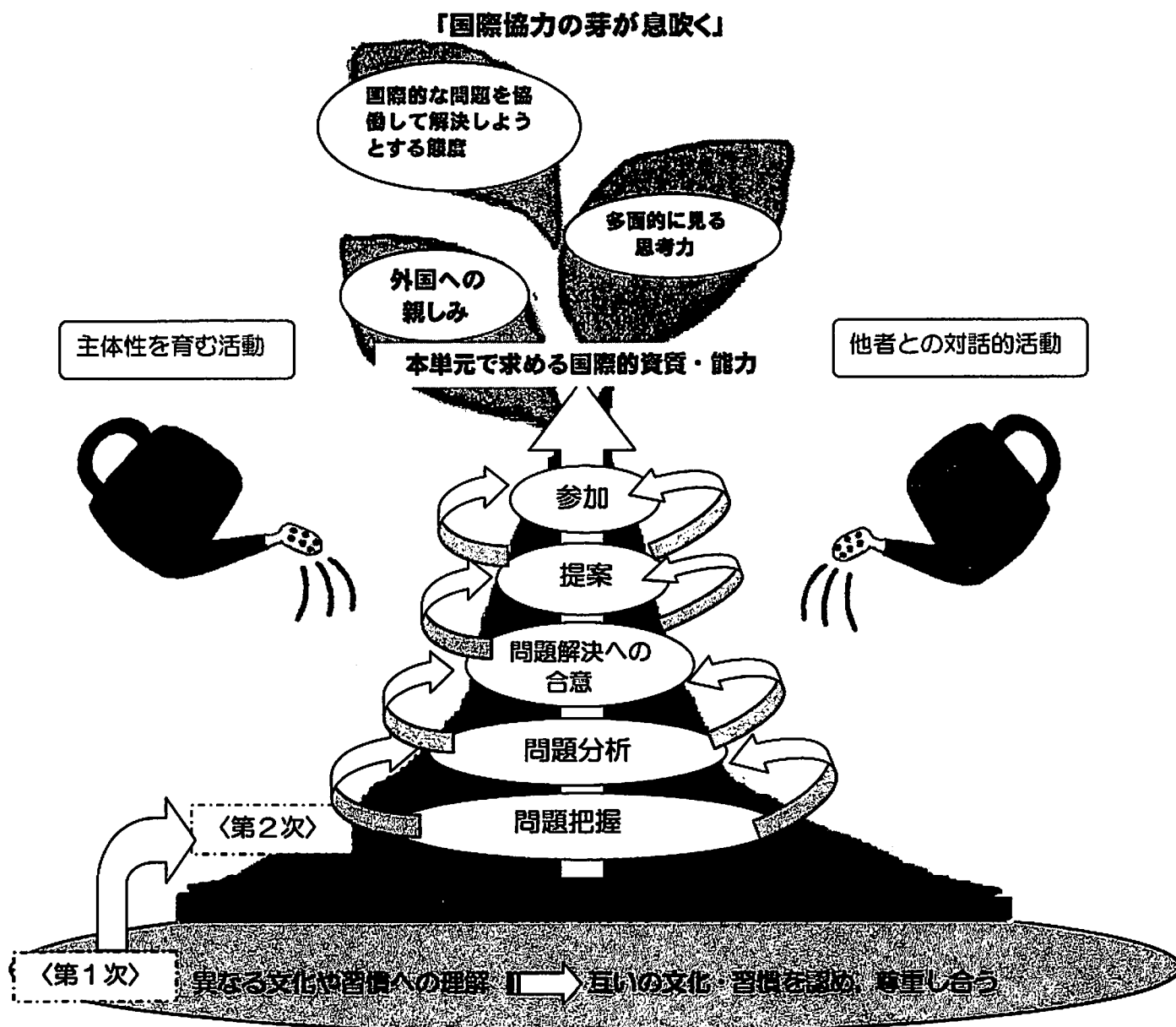
【 研究方法 】

・基準を設け、思考ツール・まとめ・感想の記述を分析する。
・実態調査の変化と抽出児童の変容から考察する。

・実態調査の変化と抽出児童の変容から考察する。

7 単元の構造図

筑波大学教授・唐木清志氏，鳴戸教育大学教授・西村公孝氏，同志社女子大学教授・藤原孝章氏の『社会参画と社会科教育の創造』を参考に，本研究における「国際協力の芽が息吹く」姿を以下に示す。



8 研究の仮説と手立て

【仮説1】

地域の学習協力者との対話的活動を取り入れ，相手の立場に立って考える場を設ければ，外国の異なる文化や習慣を親しみをもって理解することができるだろう。

手立て① 導入に身近な教材を提示する。

第1次の導入において，八街市の特産物である「落花生はどこから来たのか」という問いから興味をもたせ，原産地が日本ではなく外国であるということから自分たちの身近なところにも外国との関わりがあることに気付かせるようにする。

さらに，ペルーの楽器を使ったコンサートの映像を見せ，このコンサートが行われている場所はどこか予想させる。それが朝陽小学区の中で行われており「日本ペルー友好協会八街」主催であることを伝え，驚きや疑問を生じさせる。

手立て② 調べる観点を児童自身に焦点化させる。【主体性を育む活動】

学習計画を立てる際、何を調べるのか子どもたちと観点を焦点化させる必要があると考えた。調べる内容に違いがあると、調査後、比較することが困難になると想定したからである。外国の文化・習慣（あいさつ）や子どもの生活について焦点化させた。また、課題解決のための主体的な活動を設定し、どうしても聞きたいことについては、自由質問時間を設けて、自由に質問をさせる機会をつくった。

手立て③ 学習協力者を活かして調査活動を行う。【他者との対話的な活動】

身近な教材として本校の学区内にある「日本ペルー友好協会八街」と外国人ボランティア講師派遣事業を行っている「成田市国際交流協会」と「本学級保護者」に協力して頂き、学習協力者として学校に招いた。一方的な講話形式ではなく、児童が事前に調べてきた内容について疑問に思ったことや調べてもわからなかったことを中心に学習協力者に質問して答えていただく形式をとることとした。また、学習協力者から自国の生活と日本の生活を比較した話をしていただくことで、自国の文化や習慣に対する思いについて目が向けられるのではないかと考えた。

手立て④ マトリクス表（思考ツール）を活用して、情報を整理させる。

各国の情報を収集後、マトリクス表に分類や整理させることで、共通点や違いを見つけ、互いの国の良さを認識し、その多様性を尊重する態度を養うことができると考えた。

【仮説2】

地域における国際協力活動をしている方の努力や思いを実感をもって理解することで、他者と協働して解決する力が高まり、国際協力の芽が息吹くだろう。

手立て⑤ 具体的な事例を通して国際協力活動をしている方の切実な思いを知る場を設定する。

（問題把握、問題分析）

まず、日本の役割への意識をもたせるために、国連の関係組織として「八街ユネスコ協会」の活動を取り上げた。「書き損じはがきの行方」の学習を通して、自分たちにもできる国際協力について知ることができると考えた。次に、ペルーの児童へ向けて学用品を送っている民間団体としての「日本ペルー友好協会八街」の取り組みを取り上げる。ビデオメッセージで「ペルーの貧困問題」について、学習協力者の方にこれまでの努力を語ってもらい、児童にその方の思いをつかませたいと考える。

手立て⑥ 他者と関わらせながら問題解決させる【主体性を育む活動】【他者との対話的な活動】

（問題解決への合意、提案、参加）

国際的な問題を解決することは、大変難しく、解決しようとする意欲を失いかねない。そこで、他者と協働して問題をともに考えれば、問題を解決する一歩を踏み出す勇気をもてるのではないかと考える。具体的には、「友達と関わる」「地域と関わる」「政府と関わる」ことで、協働的な問題解決のための糸口がつかえるのではないかと考える。

手立て⑦ PMI（思考ツール）を活用して国際協力活動への吟味をさせる

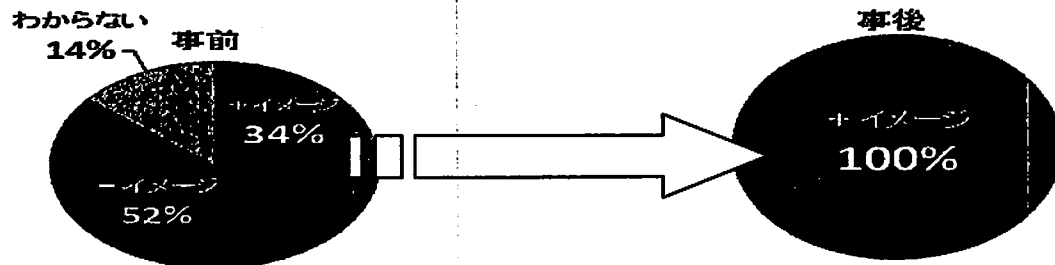
（提案、参加）

ペルーの山岳部地域にある学校へ集めた学用品を送っている関口さんが、現在、国際協力を行っている中で困っていることについて話し合いを行う。それらの問題に対して、自分たちに何ができるのか PMI シート（評価するためのシート）を使って意見を交わし、自分たちにできる国際協力について考える場を設定する。話し合いで意思決定したことを実際に活動へ移し、自分たちの力で世界へ向けて活動を行うことにより、児童自身が世界の問題を他人事ではなく、協働して国際的な問題を解決しようとする態度が育まれると考える。

9 仮説の検証

仮説1の検証 検証1 異なる習慣や文化を親しみをもって理解することができたか

(1) 外国に対する見方・考え方の変容＝外国の良さへの気づき（事前・事後のアンケートより）



(2) 自国と外国のよさへの気づき

児童の変容（児童作成のノートの感想から抜粋）

～～マイナス記述

＝ 思い

—— プラス記述

児童	A児	B児	C児
特徴	成績は上位層で性格はおとなしい。常に周りに合わせた行動をとる男子	成績は中位層で性格は明るく、何事にも前向きで積極的に取り組もうとする女子	成績は下位層で、口数は少なく学級では常に後ろから活動を見ていることが多い女子
ペルー交流会	初めは、どんな人なのか知らなくて <u>良いイメージはなかったが、ペルーの方は明るくてとてもいい人だった。実際にペルーへ行って文化に触れてみたいと思った。</u>	最初は、 <u>言葉がわからなくて話しかけづらかったけれど、優しく、微笑みながら話を聞いてくれて、緊張がとれてやさしい方なんだなあと</u> と思い、話しかけることができた。	最初は、 <u>ちょっと怖い感じで近づけなかったけれど、交流会で質問をしたり話を聞いたりしたことでペルーのことをもっと知りたくなって楽しくてまた会いたくなった。</u>
中国交流会	中国には <u>悪いイメージ</u> があったが、中国の方は、家族を大切にしようとしてにぎやかな人達がいることを知り、中国には <u>よいことがたくさんあることを</u> 知りました。	今まで、本で見たことが正しいと思っていたが、質問をしたら違う答えが返ってきたので驚いた。さらに違う中国の方からも色々な情報を聞いて <u>新しい発見ができたらしいなと思う。</u>	海をはさんで隣の国なのにカエルやウサギを食べる人達もいると聞いて日本との食事の違いに驚いた。また、服や家など <u>日本と同じ文化や習慣もあることを</u> 知ることができた。
イラン交流会	イスラム教のイメージが強く、とても <u>治安が悪いイメージ</u> でしたが、神様を大切にしていたり、自分の国のこと好きだったり、自分の国や宗教を大切にしている <u>とてもいい人達が多い国だと思った。</u>	〇〇先生（学習協力者）の説明だけではなく、資料を使って説明してくれたり、実際に宗教の儀式を教えてくださいました。より近い感覚でイランのことを知り、 <u>楽しく学ぶことができた。</u>	イランには、砂漠のイメージだったけど景色がきれいなところなどが <u>たくさんあることを写真で見られて驚いた。</u>
アメリカ交流会	実際にアメリカの方の話を聞いて、調べていたことよりも深い話しか聞けたり、 <u>日本との文化や習慣の違いに気付いたりすることができました。</u>	私達の質問に <u>笑顔で優しく丁寧に答えてくれてとても素敵だなあと</u> 思った。 <u>これからもっと色々なことを知りたい。</u>	アメリカの小学校は、調べた通りスクールバスで登校していた。生活が日本と共通するものが多いことを知れた。 <u>前々からアメリカに行きたかったがもっと行きたくなった。</u>
日本	外国の方から「日本人は、ルールを守るし、優しい人がたくさんいる」と言ってもらえて、 <u>きっと全体的に時間を守り、優しい人が多い国だと思う。</u>	他の国は日本人は「優しい」というから、 <u>人を思いやる心や、どの国とも平和で対等に接したりするところが日本のよさだと思う。</u>	<u>日本人が、外国人に対して困っていたら助けてあげたり、人に優しくしたり、平和で差別がなかったりする国だと思います。</u>

検証 I の考察

全体から見ると、(1)のグラフから事後に外国に対する見方・考え方で児童の外国に対する親しみが感じられる感想が多く見られた。これは、手立て③他者との対話的活動を通して外国の文化や習慣に対する思いに着目させたことが要因であったことが考えられる。実際に学習協力者と直接交流を図ることで外国への見方・考え方に変容が見られたのではないかと考えられる。A児は、メディアから知り得た情報から外国への悪いイメージをもっていたが、実際に生の声を聞くことで外国に対する見方が変わり、偏ったイメージがなくなったのではないかと考えられる。B児は、関わろうとする意欲は高く見られたが、対話的な活動に入った時に言葉が通じないところから言葉が詰まってしまう場面が見られた。対話的な活動になるための手立てが必要であることが考えられる。C児は、見た目や容姿から外国に対するイメージをもっていたが、対話的な活動の中で関わりをもったことによって外国に対する興味・関心が高まったのではないかと考えられる。

以上のような変容は、手立て③の対話的な活動を通して、自国の文化や習慣に対する思いを児童が理解できた。

検証Ⅱ 多面的に見る思考力が高まったか

(1) 自国と外国・外国と外国を多面的に見て、共通点や違いを導き出す。(抽出児分析)

Aグループ

The image shows a document page with a grid-like structure, likely a ledger or table. The page is divided into several columns and rows. The text within the cells is heavily obscured by noise and artifacts, making it illegible. The overall appearance is that of a low-quality scan or a document that has been heavily processed or corrupted. There are some faint, unrecognizable markings in some cells, but no legible text is visible.

気づいた こと	いろいろある けど、とにかく おもしろい こと	大抵、おもしろ いことは、か ら（五才の子供用）	の国あった 家の作り。	すべて、製作が ある。	ほとんど同じ作 がある。 でも、白にま さる。	すべて、小学校はし 中学校から違 いがある。
------------	----------------------------------	--------------------------------	----------------	----------------	----------------------------------	------------------------------

発問：違いがある中で、どのように共に生きていくか

A 児まとめ

[illegible]

検証Ⅱの考察

(1) の考察 グループAでは、全ての項目に情報を記入することができた。また、外国ー日本、外国ー外国の文化や習慣の違いを見とれている様子がうかがえる。児童Aのノートからは、外国の共通点や違いを知ったことから、認めることの大切さについて気付くことができたことがわかる。また、互いの国の良さに気付くことができたことから、外国に対する親しみをもっていることが分析できる。これは、手立て③が有効であったと考えられる。

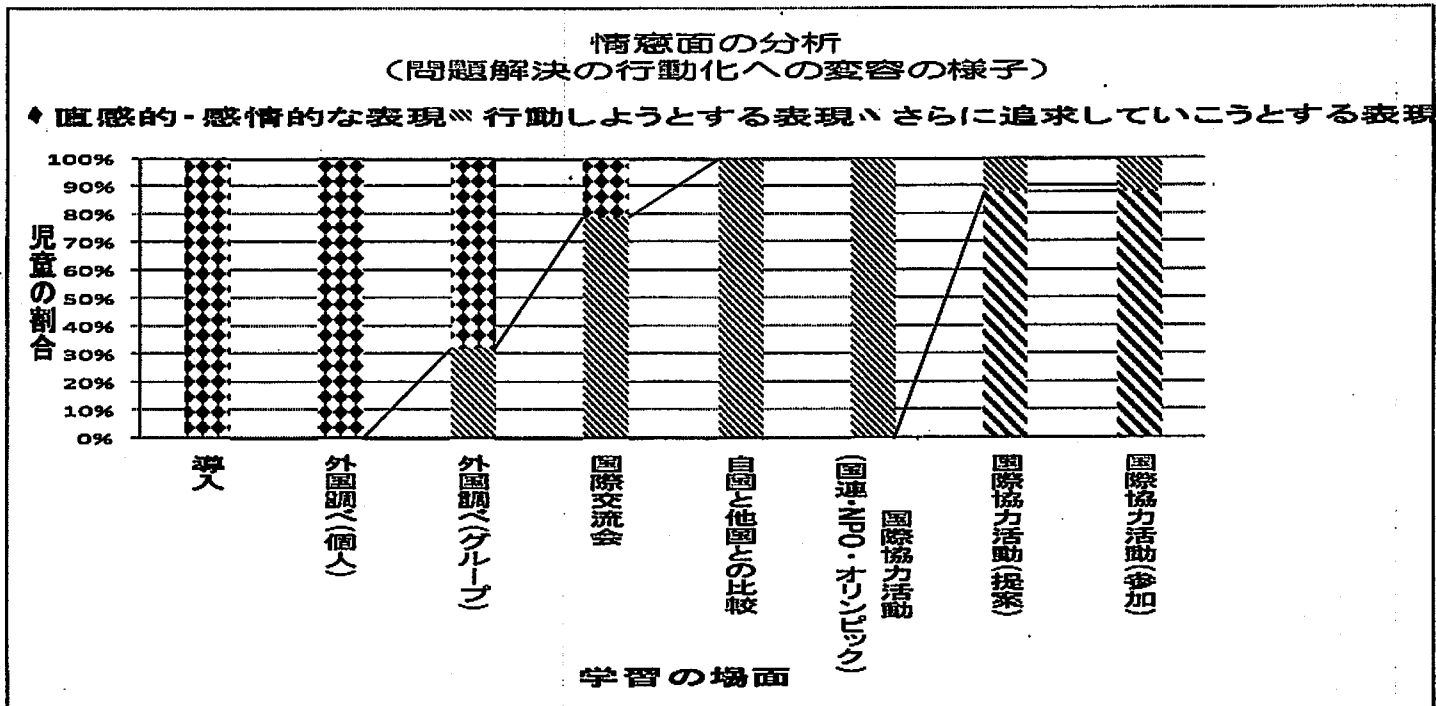
グループBでは、記述されていない項目が見られた。これは、時間的な配慮が足りなかったためである。しかし、児童Bのノートからは、自国ー外国、外国ー外国の文化や習慣の違いを正しく認識し、問題の解決につながる新たな思考に至っていることがわかる。

(2) の考察

社会認識への深まりの度合いを示す認知面の分析より、特色理解での認知面は、国際交流会の段階では、約25%から自国と外国の比較の場面では、約55%に増えている。さらに、この比較の場面から意味理解についても認知され始めている。これは手立て④のマトリクス表と発問が有効であったということが考えられる。多面的な思考力が高まったことがわかる。

検証Ⅲ 国際的な問題を協働して解決しようとする態度へ変容したか

(1) 情意面の全体の変容（児童のノートの感想から） ※詳細は資料編 P12 参照



(2) 国際協力活動中の児童のノートの感想から

児童	活動中の感想	評価	児童	活動中の感想	評価
1	ペルーの他の国でも困っていたなら助けたいと思った。	C	18	ペルーの子どもたちが少しでも勉強ができるように多くの人に協力してもらえるように努力したい。	A
2	より多く、いろんな人から集め、ペルーの人達を助けてあげたい。	B	19	関口さん(学習協力者)の話を聞いて、ペルーの子どもたちのためにがんばろうという気持ちがおこった。	A
3	勉強道具がないから学ぶことができないのがかわいそうだから集めたい。	B	20	文房具を集めてできるだけ多くの子たちが笑顔になってほしいからみんなで協力して多く集めて届けたいと思った。	A
4	私達と同じ子ども達が鉛筆や消しゴム、ノートがなくて学校に行けないのはとても悲しい。	C	21	文字を書くことすらできない子ども達にみんなで協力してより多くの文房具を集めたい。	B

児童	活動中の感想	評価	児童	活動中の感想	評価
5	少しでも早くペルーの困っている子ども達に届け、喜んでくれる姿を見たい。寄付してくれる地域の人に感謝の気持ちをもって集めたい。	A	22	ペルーの子どもたちが困らないように周りで余っている文房具を集めて届けたい。	B
6	地域の友達と協力して集める	C	23	困っている人を見て見ぬふりをせずにより多くの人に協力してもらってより多くの文房具を集めたい。	A
7	言葉や世界は違うけれど同じ世界に住んでいるから、みんな仲間です。だから仲間のために努力して集める必要がある。	A	24	関口さんの話を聞いて、最初はやる気があまり起きなかったけど、友達ががんばろうとする姿を見て、私もできる限りのことをやりたい気持ちになった。	C
8	関口さん（学習協力者）のビデオを見て、勉強をすることができない子どもたちがいることを知り、必ず助けてあげたい。	A	25	もしも自分達が困っている人の立場だとしたら、と思った時、ペルーの人達のために文房具を集めたいという気持ちになった。	A
9	今までの学習から国際交流や協力する大切さを知ったから、みんなと協力してより多くの文房具をペルーの人達に送りたい。	A	26	私達も相手も同じ人間だから、少しでも多くの人を助けるためにみんなで協力してたくさん集めたい。	A
10	同じくらいの年なのに勉強ができなくて困っている人がいるから地域の人や全校児童に協力してもらい、いっぱい集まっていきたい。	A	27	子ども達に勉強してもらってたくさん勉強してほしいからいっぱい集めたい。	B
11	自分の親も外国人だから、困っていることを聞いて、かわいそうだと思うから、自分ができることはやりたい。	B	28	住んでいる国は違うけど同じ人間同士だし、文房具をたくさん集めて送りペルーの人達の笑顔が見たい。	A
12	他の国のことでも困っているなら友達と協力してできることをやって少しでも悩み事を減らして生活してほしい。	A	29	同じ年頃の子を助けるために活動している関口さんの手伝いをぜひしたいという気持ちが起きた。	A
13	関口さん（学習協力者）の話を聞いて、ペルーの現状を知り、少しでも多く集めて役に立ちたいと思って集めていた。	B	30	一人でも多くの子どもたちを助け、笑っている姿を想像すると、自分の国のことでなくても元気がもらえそうな気がして文房具を集めたいと思った。	A
14	自分とはちがって学校に行きたくても行けないという人のために、多くの人に協力してもらいたい。	B	31	自分達の力で集めた文房具でペルーの人達に笑顔になってもらいたい。	A
15	ペルーで困っている人達を助けたいし、自分達と同じように勉強ができる環境に少しでもしたい。	A	32	ペルーの子どもたちのために友達や近所の人達に力を借りてより多くの文房具を集めたいと思った。	A
16	学校の友達、地域の方々の協力してもらえるように周りに情報を発信してより多くの文房具を集めたい。	B	33	「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の歌のように国が違っても世界は一つなのでペルーの子どもたちのために仲間と力を合わせて文房具を集めたい。	A
17	国も言葉も越えて同じ人間として友達と協力して文房具を集めたい。	A	34	自分達の力でより多くの鉛筆や消しゴムを集められるようにみんなで知恵を出し合いたい。	B

検証Ⅲの考察

(1) の考察

情意面での分析（資料編 P12 参照）では、直観的・感情的な表現から行動しようとする表現、そして、さらに追及していこうとする表現が多くの児童のノートの感想に現れたことがわかる。手だて③の対話的活動によって行動しようとする表現が現れたのがわかる。さらに、手だて⑥の主体性を育む活動と対話的活動が、国際的な問題を協働しながら、解決していこうとする態度を養うことに有効であったと言える。

(2) の考察

国際協力活動中の児童の感想を資料編 P13 の評価規準に基づいて判断したところ、34人中、A 評価が20人、B 評価が10人、C 評価が4人、D 評価が0人であった。国際的な問題を協働して解決しようとする態度は A・B 評価合わせて88%が達成したと言える。仮説2に関わる手だてが総合的に影響していると考えられる。C 評価の児童は、問題に対して他人事になってしまった。問題を自分事として捉える手だてが足りなかった。

9 成果 (○) と課題 (▲)

- 本研究を通して、異なる文化や習慣を理解できる児童が増えた。これは、身近な教材を開発し、質問を自分たちで考える主体的な活動や学習協力者との対話的な活動が有効であったことを示している。
- 児童が身近な国際協力活動に触れ、自分たちで国際協力活動を行っていく中で、国際的な資質・能力が高まっていくのが明確に見ることができた。
- ▲ 国際協力活動の最終的な場面で、ペルーへ輸送する際に金銭面的な問題が発生した。この問題に関しては、ペルー大使館と交渉中である。この問題をどのように乗り越えていくべきか検討しなければならない。
- ▲ 目指す児童像に達することができなかった児童に対して、問題を切実に捉えさせることができなかったため、原因を究明し、どのようにすれば自分事として捉えられるようにできるかを今後の課題としたい。

資料編



1 研究実践	・・・P1～P6
(1) 単元名	
(2) 単元の目標	
(3) 指導観	
(4) 学習のアウトライン	
2 学習協力者（外部人材）について	・・・P7
(1) 学習協力依頼までのステップ	
(2) 本研究に携わった学習協力者	
3 ペルーの問題について	・・・P8
(1) ペルーの概要	
(2) ペルーの抱えている問題	
4 持続可能な開発目標（SDGs）について	・・・P9
5 事前・事後アンケート	・・・P10
6 分析表	・・・P11～P12
(1) 認知面の分析	
(2) 情意面の分析	
7 検証Ⅲにおける評価規準	・・・P13
8 参考文献	・・・P13

1 研究実践

(1) 単元名 「響け! 届け! 八街から世界へ!」

(2) 単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	外国の文化や習慣、身近な国際協力活動について関心をもって調べようとしたり、自分たちにできる国際協力活動について進んで考えようとしたりしている。
社会的な 思考・判断・表現	外国の異なる文化や習慣を理解し合うことの大切さ、世界平和の大切さ、自分にできる国際協力活動について考え、適切に表現することができる。
観察・資料活用の 技能	外国の文化や習慣や国際協力の様子について必要な情報を集め、読み取ることができる。
社会的事象に についての知識・理解	外国の人々と共に生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと日本が世界において重要な役割を果たしていることを理解することができる。

(3) 指導観

児童の実態を受けて、本単元の構成を次のように工夫した。

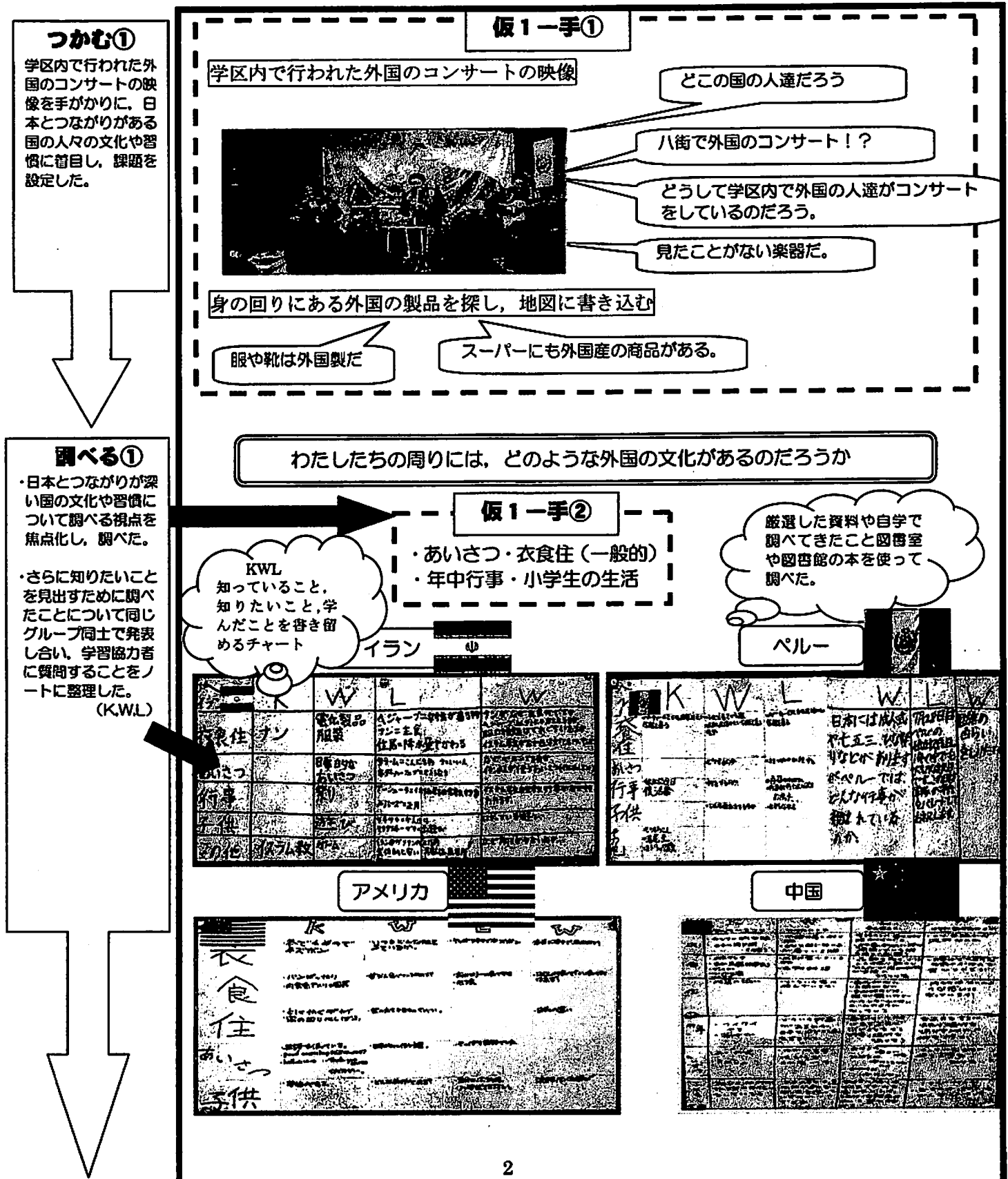
第1次「日本とつながりが深い国々」では、扱う国を4ヶ国とし、日本と経済や文化、歴史においてつながりの深い国を取り上げる。欧米からはアメリカ、アジアからは中国、中東からはイラン、中南米からペルーを取り上げる。アメリカ、中国に関しては、日常の中でTVやインターネットなどの情報を得ることも多く、政治的・経済的・文化的な関係性も深い国と言える。イランに関しては、我が国にとって重要な石油供給国であり、国内の石油輸入量の11.9%(2008年)を占めている。本学級の児童の保護者にイラン出身の方がいたことも上げた理由の一つである。ペルーに関しては、日本との関係が薄いように感じられる。ペルーのマチュピチュ遺跡は、世界の人気観光スポット第3位(大手観光サイトTripAdvisor発表)、と大変人気である。音楽では、アンデス由来の「コンドルは飛んでいく」が世界的に有名である。また、八街市で有名である落花生の原産地はペルーとされている。このように主要関係国だけではなく、日本と関係がないようで実は、関係がある国は多いという視点に気がつかせていきたいと考えた。また、朝陽小学区内には「日本ペルー友好協会八街」があり、定期的に地域の人々との交流活動を行っているため取り上げた。さらに主体性をもたせるために学習計画を立てる際、調べる観点を子どもたちから意見を出し合い、KWLシートを用いて分類し、焦点化させた。自分たちで焦点化させることで、課題解決のための主体性をもたせられると考えた。そして、児童はこのうち一カ国を選択し、教科書や資料だけでなく、学習協力者(成田市国際交流協会・日本ペルー友好協会八街・本学級保護者)に聞きたいことを質問するなど双方の対話的な活動によって、異なる文化や習慣を理解できるようにしていきたいと考えた。その後、グループで情報を整理して、調べた事を互いに発表し合うことで、情報を共有して、より理解を深めた。さらに、日本と外国の文化や習慣についてマトリックスシートに多面的に比較させ、自国や外国の良さを認識できるようにした。そして、「違いがある中で、どのように共に生きていくか」考えさせることで、互いの文化や習慣を認め、尊重し合う態度を身につけさせた。

そして、学習協力者の方々に感謝の気持ちを伝えるために教科・領域を横断的に活用して、国際交流会を企画した。学習協力者の方々を招待して、合唱や劇を発表したり、学習協力者の方々からも外国の楽器を使った演奏をしてもらったりした。交流活動を行うことで世界とのつながりをより深く実感させ、第2次へつなげた。

第2次「世界の未来と日本の役割」では、身近な具体例を2例取り上げた。1つ目に日本の役割への意識をもたせるために、国連の協力組織である「八街ユネスコ協会」の活動を取り上げた。2つ目にNGOの方々と協力してペルーの児童へ向けて学用品を送っている民間団体である「日本ペルー友好協会八街」の取り組みを

取り上げた。身近な場所で国際協力の活動をしている例を取り上げることで国際協力活動をより身近に捉えることができると考えた。さらに、主体性をもたせるために、ペルーの貧困問題を解決するための国際協力活動の課題を知り、実際に自分たちの力で実現できる国際協力活動について話し合いを行い、意志決定させた。自分たちで解決が難しいことも他者と協力すれば、不可能ではないことを実感させていきたいと考えた。これらの学習を通して、自分たちは持続可能な社会づくりに向けて、異なる文化や習慣を理解し、国際協力の芽を息吹かせることができると考えた。

(4) 学習のアウトライン (18時間扱い)



深める①

・学習協力者と交流し、質問したり、その国のよさやその国から見た日本のよさについて教わったりした。

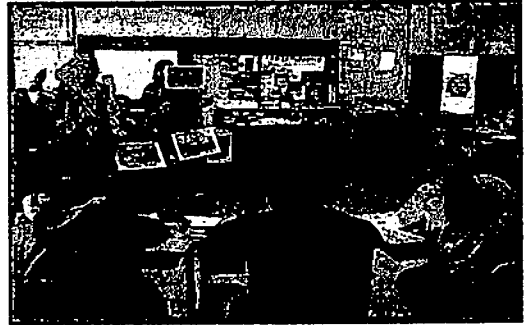
・異なる国同士でグループをつくり、自分で選択した国についてまとめたことを比較し、相違点や共通点を見つける。さらに、日本の文化や習慣とも比較し、多面的に見た。

仮1一手③

イランの方々との交流会



ペルーの方々との交流会



アメリカの方との交流会



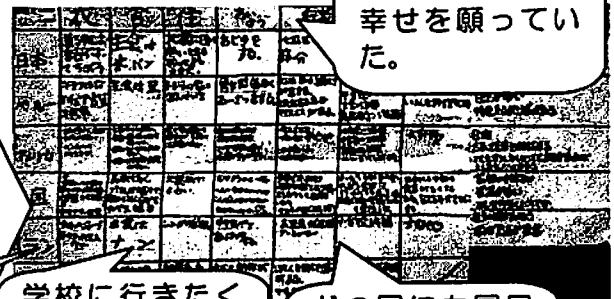
中国の方との交流会



仮1一手④



日本は恵まれた環境で生活することができる。



学校に行きたくても行けない国もある。

みんな自分の国が好きで、自国の幸せを願っていた。

どの国にも国民が大切にしている行事がある。

まとめる①

「文化や習慣の違いがある中で共に生きていくためには何が大切か」を発問し、まとめさせた。

世界には、それぞれ特色ある文化や習慣がある。外国の人々と共に生きていくためには、互いに違いを認め合い、受け入れ合うことが大切である。

広げる①

音楽科：単元名
「演奏の魅力」

学習協力者の方々への感謝の気持ちを込めて、「国際音楽交流会」を行う計画を立て、開催した。



外国にも日本と共通して伝統的な踊りがある。



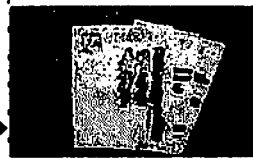
それぞれの国で大切にされている曲や歌がある。



日本の歌を外国の方々へ向けて響かせよう！

つかむ②

書き損じはがきが、学校へ変わる写真を提示し、学習問題を立てた。



書き損じはがき



学校

他には、どんな活動をしている日本人がいるのだろう。

・なぜ書き損じはがきが学校に変わったのか？
・どのようにして変わったのか？

困っている子どもたちの力になっている日本人がいるのかも？

世界の人たちのためにだれがどのようなことをしているのだろうか。

調べる②

日本はどのような国際協力活動をしているのかを知り、調べた。

深める②

・さらに知りたいことを見出すために、調べたことについて伝え合い、学習協力者に質問することをノートに整理した。

・学習協力者と交流し、活動に対する願いや思いを聞き取った。

NGO の活動

- ・市民が中心となってつくられる団体
- ・募金やボランティアによって支えられている。
- ・学用品を送ったり、物資を送ったりしている。
- ・生活の自立へ向けた支援を行っている。

国連の活動

- ・様々な分野の機関がある
- ・八街ユネスコ協会は、世界寺子屋運動を行っていて、貧しい国に学校を建てる活動を行っている。

オリンピックの活動

- ・たくさんの国が参加している。
- ・いろいろな国の選手と交流をすることが出来る。
- ・世界の国々はそれぞれの国の国旗と国歌をもってお互いに敬意を表している。

世界の困っている人の生活を助けたり、人の命を救ったりする活動をしている。

・この世界がよりよくなることを願っている
・平和と安全を世界に広めるために活動している。

オリンピズムに従ってスポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す交流活動をしている。

世界がよりよくなるためにそれぞれ異なった立場から協力活動や交流活動に参加し、相手の国や人のことを考えた活動を行っている。

まとめる②

広げる②

・ペルーへ向けて国際協力活動を行っている関口さんの「困り」を映像から知り、学習問題を立てた。

仮2一手⑤



日本ペルー友好協会八街会長

関口さんが困っていること

- ・助けてあげたい子どもたちはたくさんいるが、個人の力だけで集められる文房具の数には限界がある。
- ・家に眠っている古い鉛筆や消しゴムを集めて届けたい
- ・みんなの力が必要

～ペルー山間部の現状～

- ・学校へ行きたくても行けない子どもたちがいる。
- ・鉛筆・消しゴム・ノートを経済上の理由で買うことができない。
- ・「みんな将来のために勉強したい」と願っている。
- ・家から学校までの距離が遠すぎる

～児童の考え～

- ・関口さんが1人で続けていくことは難しいことだ。
- ・私達にはできないかも・・・
- ・どうやって集めたらよいのだろう

・困っている人を助けたい。

・私達の力を合わせれば何かできるかもしれない。

より多くの文房具を集めるにはどうすればよいだろうか

広げる②

・「より多く集めるにはどうすればよいか」
をキーワードに
個人→グループ→
全体で話し合い、自
己決定を行った。

飯2一手⑥

【課題】

- ・輸送費（コスト）がかかる。
- ・33人の力だけでは足りない

【自分達のできること】

- ・より多くの鉛筆・消しゴム・ノートを集める。
- ・より多くの人達に伝えて協力してもらう

PMI
面的に見て
面する

【だれに】

- ・ 全校児童
- ・ 地域の方々

【何を伝えるか】

- ・ペルーの山間部の現状を伝える
- ・何に困っているのか
- ・私たちの力で何ができるか

【どのような方法で伝えるか】

グループ

[illegible]

全体

The diagram illustrates a process flow for decision-making. At the top, three boxes are labeled 'だれに' (To whom), 'どのような方法' (By what method), and '理由' (Reason). Arrows from these boxes point down to a large box labeled '自己決定' (Self-determination). A large white arrow points downwards from the '自己決定' box.

[illegible]

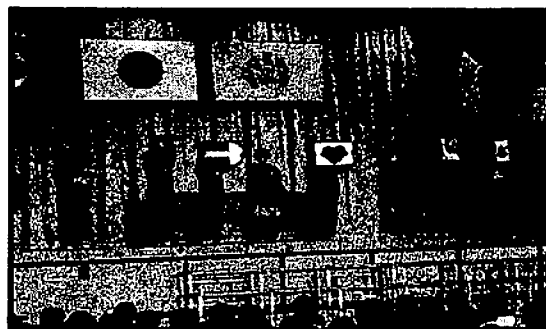
広げる②

・前時までの内容を基
に、自己決定した活
動を友達と協力し
て行った。

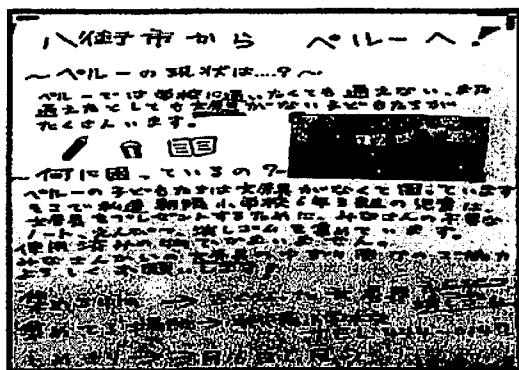
假2一手⑦

- ・サンライズTV（校内テレビ放送）で
全校児童へ向けて伝える。

- ・全校集会で全校児童へ向けて伝える



・回覧板で地域の方々へ知らせて協力していただく



・ポスターを作成し、廊下に掲示する。

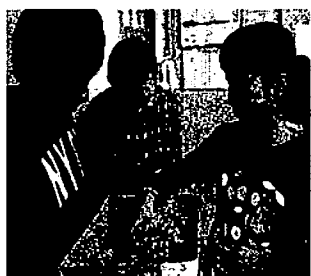


どのようにして集めるか？

校内に設置箱を置いたり、箱をもって廊下を回ったりした。

集めたものを仕分けする

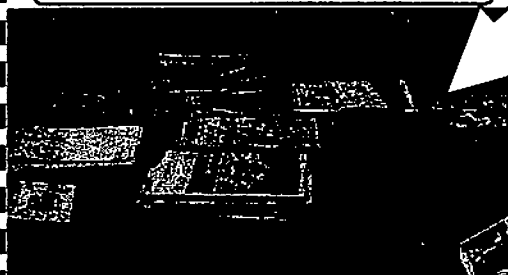
種類毎に仕分けをし、箱詰めを行った。



鉛筆は削っておけば置かれるかもしれない。

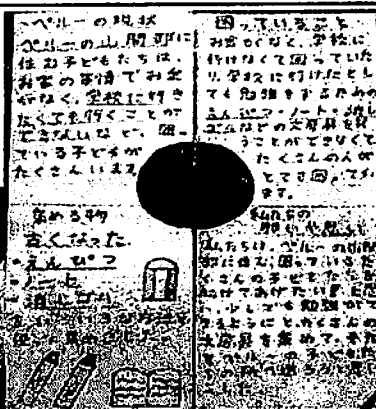
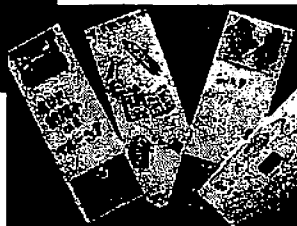


ペルーへ向けて送る準備をする。



現地の方への手紙を書き、文房具を箱に詰め、現地へ送る準備をした。

まとめのリーフレットづくりを行う。



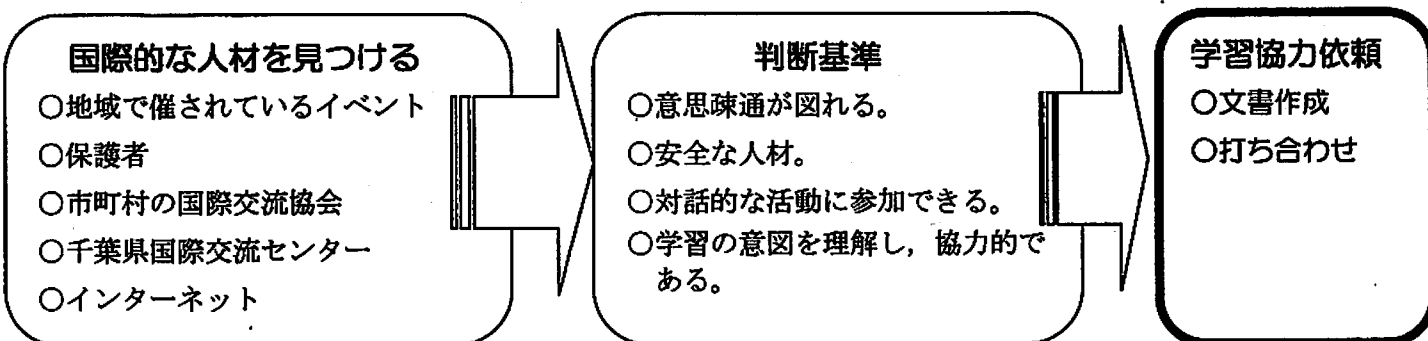
学習のまとめのリーフレットを作る。

単元を通して獲得させたい社会認識

- 外国の人々と共に生きるには、文化や習慣、考え方の違いを認め合い、互いに理解し合うことが大切である。
- 日本は、積極的に国際協力や国際交流に参加し、相手の国や人のことを考えた支援をしているなど世界において重要な役割を果たしている。
- 世界には、様々な問題があり、それに対して自分たちの身近にも国際協力をしている人が存在し、国際協力活動を行っている、また、友達や地域の方と協力すれば、自分たちにもできる国際協力がある。

2 学習協力者（外部人材）について

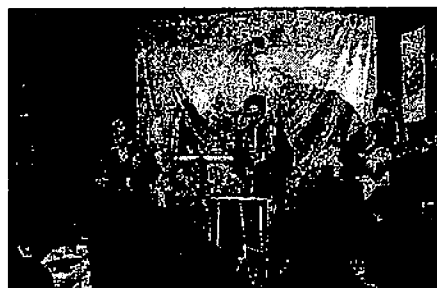
（１）学習協力依頼までのステップ



（２）本研究に携わった学習協力者（保護者は除く）

①団体：「日本ペルー友好協会八街」 国（ペルー）

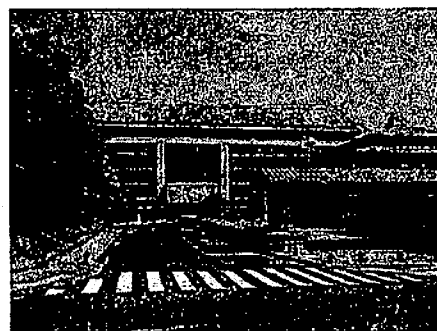
②概要：「日本ペルー友好協会八街」は、ペルーとの友好親善を図ることを目的とするペルー大使館公認の団体で、ペルーに関するフェスティバルやコンサート等イベントの開催している。本部が朝陽小学区内にあり、市内でも定期的にイベント活動を行い、ペルーのダンス、音楽、飲食民芸品等を通して、様々な文化の紹介を行っている。



①団体名：「成田市国際交流協会」 国（中国・アメリカ）

②概要：「成田市国際交流協会」は、市民と外国人の相互理解と諸外国の都市との交流を市民の手で支援していこうと、1986年5月に設立された。国際交流では、様々な事業を行っている。

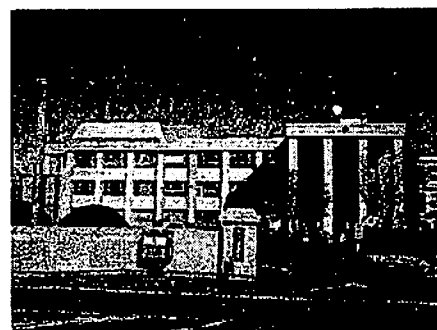
今回の研究を行うにあたり、八街市内には国際交流協会がないため、ボランティア講師を派遣していただいた。また、他の市町村においては国際交流協会があり、積極的な国際交流活動が行われている。



※協会は市役所広報課が窓口

①団体名：「八街ユネスコ協会」

②概要：「八街ユネスコ協会」は、「日本ユネスコ協会連盟（文部科学省）」の中にある団体である。日本ユネスコ協会連盟はUNESCO憲章の理念に共鳴し、国際平和と人類共通の福祉の実現を目指し、さまざまな活動を行っている。全国で約270団体ある中の一つの団体である。主な活動は「日本ユネスコ協会」の活動に準じて行っており、主な活動は、世界寺子屋運動や世界遺産運動、世界未来遺産運動を推進していく目的として、書き損じハガキを集めて送ったり、児童、生徒を対象とした環境ポスター展を開催したりしている。



※協会は市役所社会教育課が窓口

3 ペルーの問題について

(1) ペルーの概要



ペルー共和国

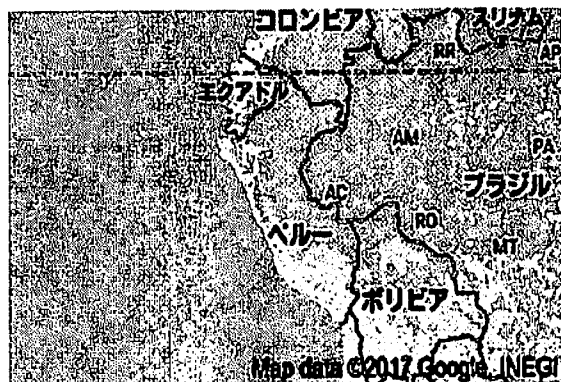
公用語：スペイン語：ケチュア語：アイマラ語：

首都：リマ

ペルー共和国は、南アメリカ西部に位置する共和制国家である。北にコロンビア、北西にエクアドル、東にブラジル、南東にボリビア、南にチリと国境を接し、西は太平洋に面する。

紀元前から多くの古代文明が栄えており、16世紀までは当時の世界で最大級の帝国だったインカ帝国（タワンティン・スウユ）の中心地だった。その後スペインに征服された植民地時代にペルー副王領の中心地となり、独立後は大統領制の共和国となっている。

(ウィキペディアより抜粋)



(グーグルマップより引用)

日本とペルー共和国の関係

政治関係

外交関係設立は1873年で中南米で最も早い。日本・ペルー関係は、第二次世界大戦期を除き常に良好に推移してきた。ガルシア政権下1989年に4月3日が「日秘友好の日」として公式に定められ、以来毎年、ペルー国会では友好の日を祝う式典を開催。2009年6月には移住110周年記念式典が常陸宮同妃両殿下の御臨席を得て開催された。2013～2014年には外交関係設立140周年を記念する諸行事が行われた。

2000年以降、フジモリ元大統領の引渡問題により、トレド政権期に、二国間関係は停滞したが、2006年成立のガルシア政権～2016年成立のクチンスキー政権において、二国間関係は非常に良好である。ガルシア大統領は2008年以降3年連続3度訪日。2008年、麻生総理が日本の総理として11年振りにペルーを訪問（APECサミット出席）。2012年5月、ウマラ大統領訪日。2013年4月、岸田外相がペルーを訪問。2014年1月秋篠宮同妃両殿下がペルーを御訪問。2016年11月、安倍総理が日本の総理として8年ぶりにペルーを公式訪問し、引き続きペルーAPEC首脳会議に参加。岸田外相及び世耕経産相も同年11月、ペルーAPEC閣僚会議に参加するためペルーを訪問した。（外務省HPより）

経済関係

輸出 銅、金、農産物、天然ガス派生品、亜鉛、化学品、繊維製品

輸入 原油、石油製品、携帯電話、自動車、とうもろこし

風の旅行社より引用

(2) ペルーの抱えている問題

「ペルー社会では、農村部からの人口移動によるリマ首都圏への人口集中に伴う都市化と貧困問題が重要な課題になっている。アンデス山岳地帯の耕作限界地域に極貧の農民が多く、ペルーの最も貧困な10%の人口のうち、59.8%はシエラと呼ばれる山岳地帯の農村部に集中している。1970年代に入ってから、農村部の貧困問題が深刻化し、農業失業者がリマ・カヤオ首都圏などの都市へ職を求めて移住した結果、都市部の移住者の人口が急激に増えた。この主要因は、山岳農村部の劣悪な環境と生産性の低さ、小零細農業などの原因による低所得が貧困を生み、これら貧困層の都市部における経済生活手段の確保への期待により、貧困層農民が都市部へ移動する動機づけとなっている。」（高崎経済大学福井千鶴さんの研究より）



4 持続可能な開発目標 (SDGs) について

持続可能な開発目標 (SDGs) とは

持続可能な開発目標 (SDGs)、通称「グローバル・ゴールズ」は、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動を呼びかけています。

・193 の国連加盟国は 2015 年 9 月、ニューヨークの国連本部で開催された「持続可能な開発サミット」で、新たな持続可能な開発アジェンダ「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を正式に採択しました。このアジェンダには 17 の目標と 169 のターゲットが盛り込まれています。

これら 17 の目標は、ミレニアム開発目標 (MDGs) の成功を土台としつつ、気候変動や経済的不平等、イノベーション、持続可能な消費、平和と正義などの新たな分野を優先課題として盛り込んでいます。ある目標を達成するためには、むしろ別の目標と広く関連づけられる問題にも取り組まねばならないことが多いという点で、目標はすべて相互接続的といえます。SDGs は、パートナーシップと実用主義の精神に基づき、いま正しい選択をすることで、将来の世代の暮らしを持続可能な形で改善することを目指します。すべての国がそれぞれの優先課題や、全世界的な環境課題に応じて採用できる明確なガイドラインやターゲットも設けられています。SDGs は包摂的なアジェンダとして、貧困の根本的な原因に取り組むとともに、人間と地球の両方にとってプラスとなる変化の実現に向け、私たちを団結させるものとなっています。ヘレン・クラーク UNDP 総裁は「2030 アジェンダの支援は、UNDP にとって最優先課題のひとつです。SDGs は貧困、気候変動、紛争など、私たちの世界が抱える喫緊の課題のいくつかに取り組むための共通の計画とアジェンダを私たちに提供しています。UNDP には、前進の原動力として、各国が持続可能な開発に向けた道を歩むための支援ができる経験とノウハウがあります」と呼びかけます。

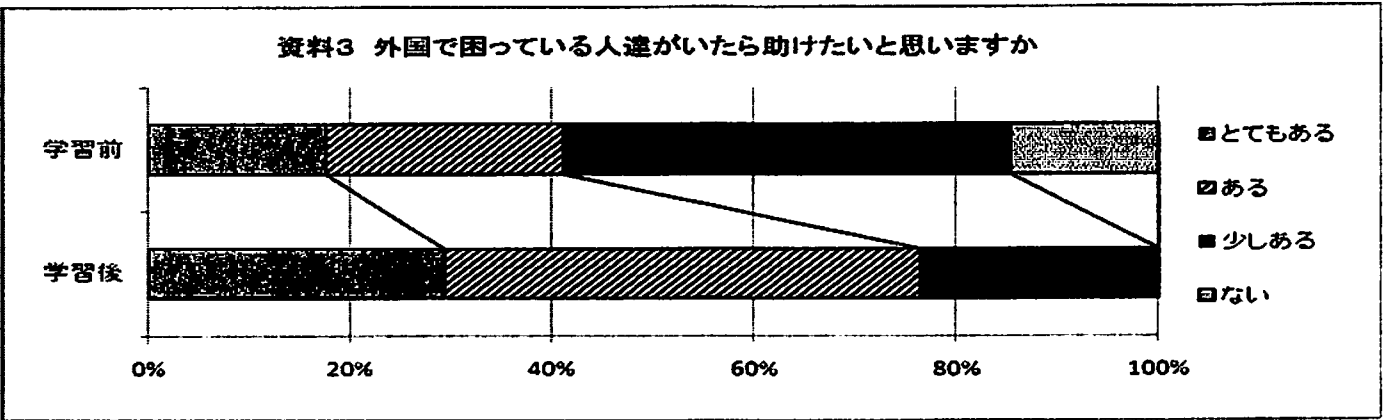
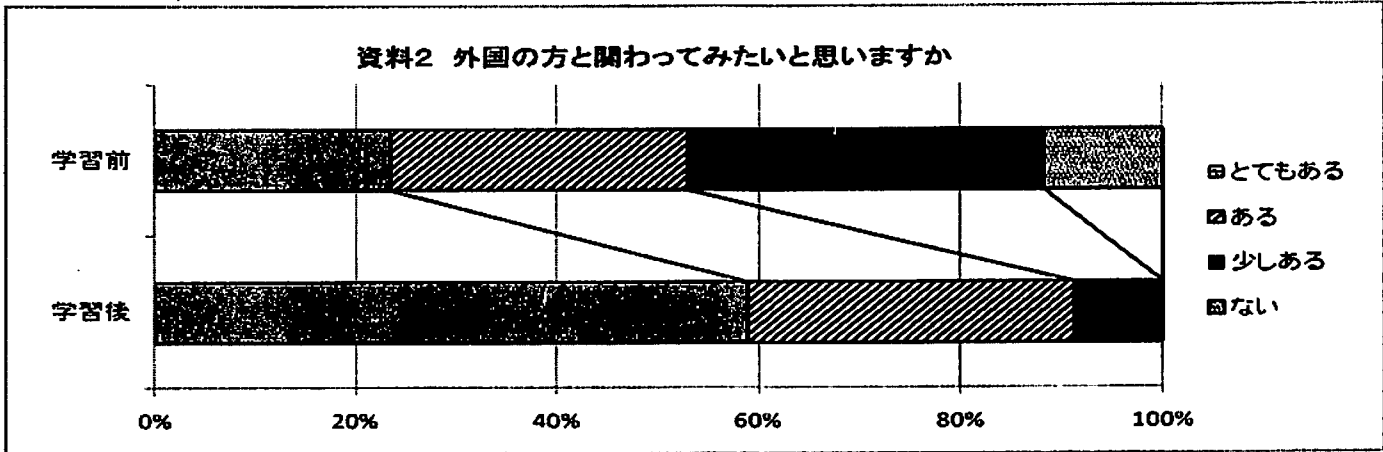
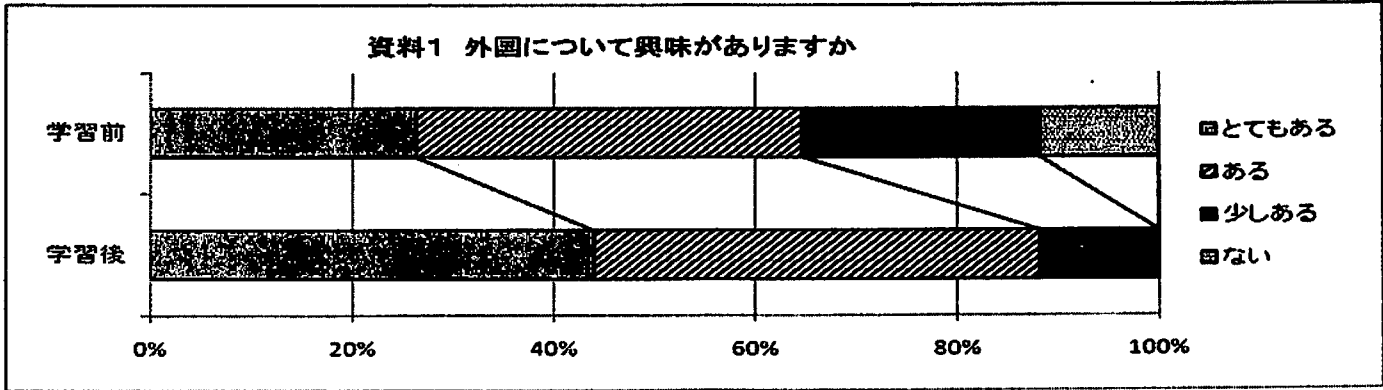
(国連開発計画 UNDP 駐日代表事務所 HP より)



世界を変えるための 17 の目標

- 目標 1: 貧困をなくそう
- 目標 2: 飢餓をゼロに
- 目標 3: すべての人に健康と福祉を
- 目標 4: 質の高い教育をみんなに
- 目標 5: ジェンダー平等を実現しよう
- 目標 6: 安全な水とトイレをみんなに
- 目標 7: エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- 目標 8: 働きがいも経済成長も
- 目標 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 目標 10: 人や国の不平等をなくそう
- 目標 11: 住み続けられるまちづくりを
- 目標 12: つくる責任つかう責任
- 目標 13: 気候変動に具体的な対策を
- 目標 14: 海の豊かさを守ろう
- 目標 15: 陸の豊かさも守ろう
- 目標 16: 平和と公正をすべての人に
- 目標 17: パートナーシップで目標を達成しよう

5 事前・事後アンケート



資料4 外国に対する見方考え方における変容

☆・・・外国に対する親しみ
★・・・外国の地理的・文化的要素に目を向けている

項目	児童の感想から					
	事前	要素	人数	事後	要素	人数
外国に対する 見方・考え方	有名な人・物・ことがある。	+	24	☆日本とは、違う文化がすばらしい。	+	8
	話せない。	-	14	☆困っている人がいれば、助けようとする。	+	5
	怖い	-	14	☆明るい	+	5
	よくわからない	±	11	☆優しい	+	5
	良くないイメージがある	-	9	☆自分の国が好き。	+	3
	昔、戦争をした。	-	3	☆家族を大切にしている。	+	3
	自然が多い。	+	3	★観光資源がたくさんある。	+	3
	治安が悪そう。	-	2	★自然が豊かだ。	+	2
				☆発想が良い。	+	1
				☆いろいろな国の良さを見つけられる。	+	1
				★土地を上手に活かしている。	+	1
				★食べ物が安くておいしい。	+	1

6 認知面・情意面の分析表

(1) 認知面の分析 (単一的から多面的へ)

段階	評価規準	項目	評価基準キーワード例
1	調べ学習で、写真やグラフの読み取りから、社会の事実を確認することができる。【事実確認】	存在 分布 地理的・空間的 時代的・時間的 変化	～がある。～がいる。 ～が多い。～が少ない。 ～が高い。～が低い。 ～が新しい。～が古い。 最高は～。最低は～。
2	調べ学習が進んだり、発表を聞いて整理したりして、事象の特色を理解している。【事象の特色理解】	分類 異同 順序	～と～は同じ仲間だ。 ～と～は～が同じだ。～が違う。 ～の次は～になる。
3	調べ学習が進んだり、発表を聞いて整理したりして、事象の意味を理解している。【事象の意味理解】	因果 理由	～が起きているのは、～だからだ。 ～があるから～がある。
4	社会事象の中に出てくる人間の思考や感情を理解している。【思考・感情の理解】	感情理解 思考理解	～さんは、～の気持ちなのだろう。 ～さんは、～を考えているのだろう。
5	社会に生きる人間の生き方に触発されて、自己を見直したり、生き方を考えたりすることができる。【自己の理解・啓発】	自己理解 自己啓発	～さんと比べると、自分は～かな。 ～さんのように、自分は～をしていこう。

認知面の分析		導入	外国調べ個人	外国調べKWL	交流会	比較	音楽交流会	国際協力活動 (国連・NGO・オリンピック)	国際協力活動	参加
1	存在分布	28	24	17						
	地理・空間		4	8	3	1				
	時代・時間			2						
	変化				22					
2	分類		2		2		20			
	異同	2	4		7	19	7			
3	順序									
	因果理由						7	2	3	1
4	感情理解							26		
	思考理解							3	12	
5	自己理解									2
	自己啓発								21	32

	導入	外国調べ(個人)	外国調べ(グループ)	国際交流会	自国と他国との比較	音楽交流会	国際協力活動 (国連・NGO・オリンピック)	国際協力活動(比較)	参加
自己の理解・啓発	0	0	0	0	0	0	0	21	34
思考・感情の理解	0	0	0	0	0	0	29	12	0
事象の意味理解	0	0	0	0	14	7	5	1	0
事象の特色理解	2	6	7	9	19	27	0	0	0
事実確認	30	28	27	25	1	0	0	0	0

(2) 情意面の分析

(問題解決の行動化の変容)

分類	項目	表記例
直感的表現 情意的表現	1 協力	～さんと一緒にやりました。
	2 反省	～した方がよかった。
	3 注意・不注意	～に気がつけた。
	4 興味	～がおもしろかった。
	5 部分理解	～のところがわかった。
	6 満足・不満足	～はよかった。
	7 同情・共感	～はかわいそうだった。
	8 感動	～におどろいた。
行動的表現	1 批判	～はおかしい。
	2 希望・願望	～してみたい。
	3 関連	～と～はおもしろい。
	4 知的興味	～や～は関心をもってやってみよう。
	5 知的好奇心	～ではないだろうか。
	6 関連理解	～は～だということがわかった。
	7 関連比較	～と～を比べてみる。
	8 深化	～をもっとくわしくやったらよかった。
発展的表現	1 追求	～をもっと～や～で調べたい。
	2 発展	明日～さんと～に行って～を調べてみよう。
	3 行動的興味	だから、もっと～や～を調べて勉強してみたい。
	4 自覚	やっぱり～だったか。～していくことが大事だ。
	5 態度化	～は～だとわかった。これから頑張ってみよう。

情意面の分析

	導入	外国調べ(個人)	外国調べ(グループ)	国際交流会	自国と他国との比較	音楽交流会	国際協力活動 (国連・NGO・オリンピック)	国際協力活動(読書)	国際協力活動(参加)
興味	59%	22%	9%	3%		29%			
部分理解		56%	9%						
満足・不満足		8%	9%						
同情・共感		5%							
感動		9%		18%		59%			
批判			12%						
希望・願望			17%	24%		9%			
関連				6%					
知的興味				3%	3%				
知的好奇心					21%		18%	6%	3
関連理解					32%	3%	29%	5%	3%
関連比較				9%			41%		
深化							12%	1	6
追求								2	1
発展									
行動的興味									
自覚								40	30
態度化								40%	57

7 検証Ⅲにおける評価規準・基準

評価規準 協働して国際的な問題を解決しようとすることができる。

A 基準	○ 国際的な問題を自分事として捉え、問題解決に向けて、他者と協働しながら取り組んでいる。
B 基準	○ 国際的な問題に共感し、他者と協働しながら取り組んでいる。
C 基準	○ 国際的な問題を自分事として捉えられず、他者と協働しながら取り組んでいる。 ○ 国際的な問題に共感しているが、消極的な活動をしている。
D 基準	○ 国際的な問題を自分事として捉えられず、消極的な活動をしている。

8 〈引用・参考文献〉

- 「小学校学習指導要領解説 社会編」文部科学省 東洋館出版社 2008年
- 唐木 清志・西村 公孝・藤原 孝章「社会参画と社会科教育の創造」学文者 2010年
- 水越 敏之「新しい国際理解教育を創造する」ミネルヴァ書房 1995年
- 唐木 清志「子どもの社会参加と社会科教育」東洋館出版社 2008年
- 鍋倉 健「日本人の異文化コミュニケーション」学文社 1990年
- 澤井 陽介「社会科の授業デザイン」東洋館出版社 2016年
- 泉 貴久「社会参画の授業づくり」古今書院 2012年
- 福井 千鶴「ペルーにおける都市化と貧困問題」1999年
- 「社会科教育2004年1月号」明治図書 2004年
- 「成田市国際交流協会」URL <http://www.ngy.3web.ne.jp/~nifs/>
- 「日本ペルー友好協会八街」URL <http://peru.iinaa.net/>
- 「国連開発計画 UNDP 駐日代表事務所」URL <http://www.jp.undp.org/>